

- (イ)..... 第何條ニ依リ
  - (ロ)..... 第何條ニ依リ
  - (ハ)..... 第何條ニ依リ
  - (ニ)..... 第何條ニ依リ
- 十九市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除又ハ掃除ニ關スル市ノ施設ニ付毎月掃除監督ヨリ掃除監督長ニ具申シタル件數
- (イ)公共溝渠ノ築造修繕浚渫ニ付
  - (ロ)公共便所ノ築造修繕ニ付
  - (ハ)塵芥焼却場ノ築造修繕ニ付
  - (ニ)汚物假置場築造修繕ニ付
  - (ホ)市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ニ付
  - (ヘ)其ノ他
- 二十掃除ニ關スル費用豫算前年度決算ノ比較

- 其他
- 第二章 掃除監督ノ職務
- 第十七 掃除監督ハ市内ノ掃除區ヲ擔任シ又ハ塵芥焼却場汚物假置場等ヲ擔任ス
- 第十八 掃除監督ハ常ニ擔任ノ區内ヲ巡回シ又ハ擔任ノ場所ニ於テ部下ノ掃除巡視及掃除人ノ勤務作業服裝姿勢等ヲ監視シ必要ナル指揮ヲ爲スヘシ
- 第十九 掃除監督ハ左ノ事項ヲ視察スヘシ
- 一 掃除巡視ノ配置ノ適否
  - 二 掃除人ノ數及其ノ配置ノ適否
  - 三 塵芥焼却場汚物假置場ノ狀況
  - 四 公共溝渠公共便所ノ狀況
  - 五 其ノ他市ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況
  - 六 私人ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除ノ狀況其他掃除ニ

關スル法令ノ行否

- 第二十 掃除監督ハ公共溝渠公共便所塵芥燒却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第二十一 掃除監督ハ汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ
- 第二十二 掃除監督ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督長ニ報告スヘシ
- 第二十三 掃除監督ハ掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ掃除巡視ヲ指揮シテ其ノ事務ニ從事スヘシ
- 第二十四 掃除監督ハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキ又ハ警察官吏ノ通知アリタルトキハ掃除巡視ヲシテ臨檢セシメ必要ト認ムルトキハ

自ラ臨檢スヘシ

- 掃除監督長ノ命アリタルトキ亦同シ
- 第二十五 掃除監督ハ法令又ハ市參事會若ハ市長ノ訓令又ハ掃除監督長ノ指示ニ關シ行務ノ統一ヲ圖ル爲メ隨時部下ノ掃除巡視ニ必要ナル訓授ヲ爲スヘシ
- 第二十六 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ受持區内ニ於ケル巡行線路ヲ定メ掃除監督長ニ報告スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
- 第二十七 掃除監督ハ掃除巡視ノ出勤簿及勤務日誌其他必要ナル簿冊ヲ整理スヘシ
- 第二十八 掃除監督ハ臨時必要アルトキハ掃除巡視ヲシテ他ノ掃除巡視ノ受持ニ屬スル事務ヲ補助代理セシムルコトヲ得
- 第二十九 掃除監督ハ部下ノ掃除巡視ノ進退賞罰ヲ掃

除監督長ニ具申スヘシ

第三十 掃除監督ハ掃除人ノ解雇ヲ要スト認ムルトキ又ハ人夫受負人ニシテ不都合アリト認ムルトキハ掃除監督長ニ具申スヘシ

第三十一 掃除監督ハ毎月三回左ノ事項ヲ掃除監督長ニ報告スヘシ

一 使用シタル掃除人ノ延人員

二 搬出シタル塵芥及汚泥ノ各見積重量又ハ容量

三 焼却シタル塵芥ノ見積重量又ハ容量

四 公共溝渠公共便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ築造修繕浚渫等ニ着手シ又ハ落成シタル箇所其ノ狀況

五 掃除監視吏員ノ特ニ視察シタル戸數

六 掃除監視吏員巡回視察中私人ニ與ヘタル注意ノ件數

七 掃除監視吏員申告ニ依リ臨檢シタル件數

八 掃除監視吏員警察官署ノ通知ニ依リ臨檢シタル件數

九 掃除監視吏員施行規則又ハ掃除法施行ニ關スル廳府令ニ依リ告發シタル者ノ數  
其他

第三章 掃除巡視ノ職務

第三十二 掃除巡視ハ掃除區内ノ受持區ヲ擔任シ又ハ塵芥焼却場汚物假置場等ニ勤務スヘシ

第三十三 掃除巡視ハ常ニ受持區内ヲ巡回シ又ハ所屬ノ場所ニ出務スヘシ

第三十四 掃除巡視ハ毎日掃除人ノ被服及掃除用器具ヲ點檢シ勤務日誌ニ記載スヘシ

第三十五 掃除巡視ハ掃除人ノ作業等ヲ巡視シ必要ナ

ル指揮ヲ爲スヘシ

第三十六 掃除巡視ハ必要ト認ムルトキハ掃除人ノ作業服装掃除用器具等ニ關シ視察シタル事項ヲ掃除監督ニ報告スヘシ

第三十七 掃除巡視ハ公共溝渠公共便所其他市ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ其狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ但溝渠便所塵芥焼却場汚物假置場等ノ築造修繕浚

渫等ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督ニ報告スヘシ

第三十八 掃除巡視ハ塵芥容器塵芥溜等ヲ検査シ汚物停滞シタルトキハ掃除人ニ指揮シテ撤出セシムヘシ其破損シタルトキハ家人ニ注意ヲ與ヘ取替又ハ修繕ヲ爲サシムヘシ

第三十九 掃除巡視ハ溝渠便所井戸流其他私人ノ掃除スヘキ場所ヲ視察シ家人ニ注意ヲ與ヘ又ハ時宜ニ依

リ衛生組長ニ交渉シ其ノ狀況ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

但汚物掃除法第七條ニ依リ私人ニ戒告ヲ要スト認ムルトキハ掃除監督ニ報告スヘシ

第四十 掃除巡視ハ私人ニ於テ掃除監督長ノ戒告ヲ履行スルヤ否ヲ監視シ掃除監督長ニ報告スヘシ

第四十一 掃除巡視ハ掃除監督長ニ於テ私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行スルトキハ上司ノ指揮ヲ受ケ其事務ニ従事スヘシ

第四十二 塵芥焼却場又ハ汚物假置場所屬ノ掃除巡視ハ毎日出入ノ汚物舟車數其ノ他見積重量又ハ容量ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

第四十三 掃除巡視ハ汚物掃除法第十五條ノ申告ヲ受ケタルトキハ二十四時間以内ニ臨檢シ直ニ其事實ヲ

掃除監督ニ報告スヘシ掃除監督長又ハ掃除監督ノ命アリタルトキ亦同シ若シ期限内ニ臨檢シ難キ事由アルトキハ掃除監督ニ具申スヘシ

第四十四 掃除巡視ハ毎日一定ノ時刻ニ掃除事務所又ハ出張所ニ參集シ出勤簿ニ捺印シ諸般ノ報告等ヲ爲スヘシ

第四十五 掃除巡視ハ受持區内ノ戸數及塵芥容器塵芥溜ノ數ヲ調査ノ上記録シ常ニ之ヲ加除スヘシ

第四十六 掃除巡視ハ勤務中給與ノ手帳ヲ携ヘ大小ノ事故ヲ之ニ記入スヘシ手帳ハ上司ノ求アルトキハ之ヲ示スヘシ

第四十七 掃除巡視ハ前各項ニ掲クルモノノ外毎日勤務ノ要領及勤務中ノ事故ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

●掃除監視吏員被服給與規程

明治三十三年五月二十三日  
市勅令甲第二十五號

内 務 局  
總 務 部  
會 計 部

本市掃除監視員監督長監督及巡視被服給與規程左ノ通り相定ム

被服給與規程

第一條 被服ハ現品靴ハ料金ヲ以テ給與ス其品目及使用期限等左ノ如シ

品 目	個 數	使用期限	使用季節
夏 服	二 組	四 箇 月	六月一日ヨリ九月三十日マデ
冬 服	一 組	八 箇 月	十月一日ヨリ翌年五月三十一日マデ
外 套	一 組	二十四箇月	十月一日ヨリ翌年九月三十日マデ

靴	子	一	個	十二箇月	十月一日ヨリ 翌年九月三十日マデ
靴	料	二	個	分	十二箇月
					四月一日ヨリ 翌年三月三十一日マデ

第二條 給與品ハ新任ノ際又ハ使用期ノ始ニ於テ之ヲ給ス其期限内ニ於テ轉免シタルモノハ現品ヲ返納セシム

第三條 月數ノ計算ハ曆ニ從フト雖モ其終始ノ端日數ハ之ヲ通算シテ三十日以内ハ一ヶ月トシ三十一日以外ハ二ヶ月トス

第四條 靴料ハ毎年度ノ始ニ於テ之ヲ支給ス但新任ノ者ニハ其月數ニ應シ支給ス

第五條 帽前章及制服釦ハ使用期ノ終リニ於テ返納セシム

第六條 第二條ノ返納品ハ前任者ノ使用殘期ヲ逐ヒ常應會計部用度課ニ於テ其期限ヲ査定シテ之ヲ新任者

又ハ遺失汚損ノ爲メ引換ヲ要スルモノニ支給スヘシ  
第七條 給與品ハ正當事故ノ爲メ遺失汚損シタル者ハ更ニ換與スヘシ  
但自己ノ過失ニ依リ遺失汚損シタル者ハ更ニ現品ヲ給與シ前給與品ニ對シテハ原價ニ基キ使用殘期ニ屬スル金額ヲ賠償セシム

●掃除巡視服務規程 明治三十三年四月二日 市訓令甲第十四號

掃除監視吏員

明治三十三年三月東京府訓令甲第一三號ヲ以テ本市掃除巡視服務紀律左ノ通被定候條此旨心得ヘシ

掃除巡視服務規程

第一條 掃除巡視ハ汚物掃除法及之ニ關スル法規命令ノ規定ニ依リ汚物ノ掃除及清潔ノ保持ヲ監視シ其執行ニ任スルヲ以テ本分トス

第二條 掃除巡視ハ監督吏員ヲ尊重シ其指揮命令ニ服従スヘシ

第三條 職務上ニ關スル申告ハ誠實ヲ旨トシ苟モ虚飾アルヘカラス

第四條 掃除人ヲ監督スルハ嚴正ヲ旨トシ苟モ不正怠慢ノ行爲アレハ假借ナク之ヲ處置スヘシ

第五條 職務上私人ニ接スルニハ言語動作ヲ慎ミ懇切ヲ旨トシ苟モ傲慢ニ涉ル所爲アルヘカラス

第六條 職務執行ノ爲私人ノ邸宅内ニ入ルヲ得ルト雖モ猥褻ニ餘事ヲ談シテ私人ニ迷惑ヲ及ホシ又ハ之ト狎昵スルカ如キ所爲アルヘカラス

第七條 職務ニ關シ見聞シタル事故ハ細大トナク監督吏員ニ申告スヘシ其ノ一家ノ私事ニ係ル事項ハ他ニ之ヲ漏洩スルヲ得ス

第八條 職務執行中ハ必ス制服ヲ著シ苟モ其服裝ヲ亂スカ如キコトアルヘカラス

第九條 制服其他給與品貸與品ハ丁寧ニ保存シ汚損セサル様注意スヘシ

第十條 職務執行中ハ其容儀ヲ正クシ苟モ酒氣ヲ帶ヒ其他不體裁ノ所爲アルヘカラス

第十一條 職務ニ關係アル受負人等ヨリ金品ノ贈與ヲ受ケ又ハ響應ニ與ツカルコトヲ得ス

●掃除巡視採用試験委員長同委員設置

明治三十三年三月二十三日  
市長決判總發第三百六十二號

掃除巡視採用ニ付市役所内ニ試験委員長一名試験委員若干名ヲ置クモノトス

但委員長並委員ハ市長之ヲ命ス

●種痘名簿調製方  
明治三十一年十月二十一日  
市訓令第十三號





● 種痘者届出方明治三十一年十月二十六日  
 種痘ヲ爲シタルモノハ明治十八年十一月第三十四號布告種痘規則第六條ニ據リ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ所轄區役所ニ届出ツヘキ制規ニ付自然該届出ヲ怠ルトキハ同則第九條ノ明文ニ依リ處罰セラレ候條心得違ノモノ無之様篤ト注意スヘシ

● 痘苗製造出張所種痘定日並種痘勵行方

明治三十二年一月六日勅使通牒  
 總乙第二千四百三十一號ノ二區長宛

本市内東京痘苗製造所各種痘出張所ノ義本年ヨリ別紙日割ノ通更ニ三个所ヲ増設シ實施候ニ依リ受痘兒操出方盡力相成度旨該所ヨリ依頼有之候抑モ種痘ハ痘瘡ニ對シテハ完全ノ防疫法ナルコトハ今更申迄モ無之尙ホ市内日多數ノ出產兒アリテハ當時ニ於テ種痘ヲ周到ナラシムレハ決シテ天然痘發生ノ憂ハ無之筈ト被存候

殊ニ痘苗製造所ニ於テハ勉メテ種痘ノ普及ヲ企圖スル趣ニ有之候條各出張所ニ對シ可成便利ヲ與ヘ且ツ受痘兒ノ繰出方一層勵行相成候様致度此段及通知候也

(別紙)

東京痘苗製造所各出張所種痘日割

種痘定日	出張所所在地	授痘兒區域
日曜日	淺草區永久町龍寶寺(皇俗禪寺)	淺草區内
月曜日	下谷區役所内 麻布赤羽橋際五層	下谷區内 麻布區芝區内
火曜日	赤坂區役所内 四谷傳馬町見付前六泉	赤坂區内 四谷區龜町區内
水曜日	小石川區役所内 牛込區神樂坂上見沙門寺	小石川區内 牛込區内
木曜日	本郷區役所内 神田區仲町大時計前福田屋	本郷區内 神田區内
金曜日	日本橋區役所内 京橋區新富町三丁目春木屋	日本橋區内 京橋區内

土曜 日

深川區役所内  
本所區對下水五百羅漢

深川區内  
本所區内

参考每年十二月二十八日ヨリ翌年一月八日迄種痘ヲ  
休止ス

●種痘表差出期日明治三十二年一月十二日助役通達  
明治十八年十二月東京府甲第八十九號布達種痘細則第  
六條ニ依リ毎年二月迄ニ東京府廳へ直接差出相成候種  
痘表ノ儀ハ自今當役所ニ於テ取纏メ同廳へ報告ノ見込  
ニ付二月十日限リ當役所へ差出有之度此段及通達候  
也

●貧困者種痘費清潔方法費支辨方

明治三十二年四月二十七日  
市訓令甲第十四號

區 役 所

貧困者種痘費及清潔方法費ハ明治三十二年度ヨリ市費

支辨トス

●定期種痘普及方注意明治三十二年十月二十二日

市訓令甲第十一號

區 役 所  
每年春秋二季ニ至レハ種痘細則第四條ニ依リ無資力者  
ニ對シテハ夫夫種痘所ヲ開設シ施種痘ヲ行ヒ候處其他  
一般適齡者ニシテ種痘ヲ等閑ニ付スル向ナキヲ保セス  
就テハ自今一層該時季ニ至レハ部内人民へ告諭シ精誠  
洩レナク種痘普及候様取計フヘシ

●春秋期種痘施行表明治三十三年十月十九日

市訓令第六號

區 役 所  
今般東京府訓令第四十三號ヲ以テ報告例改定相成候ニ  
付テハ春秋二期種痘施行表ノ儀ハ自今別紙様式ニ依リ  
調製シ結了後十五日以内ニ報告スヘシ

但明治三十二年十月本市訓令甲第三十七號種痘施行

表ハ廢止ス  
(別紙)

期		名		種痘		初種		再種以上		計		疾病等放シテノ人員		要種ニシテノ人員		開始日		終了日		
報	名	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘	種痘

●施種痘其他診斷檢案表式

明治三十年七月七日  
內五發第二四十九號市醫規

市醫職務章程第七條ニ依リ施種痘其他診斷檢案ニ係ル事項ハ左ノ表式ニ照準申報有之度此段及通達候也

至同 自明治 年 月 施種痘表 何區擔當 市醫氏名印

區別	初種		再種		以上三種		合計
	善感	不善感	善感	不善感	善感	不善感	
一年未滿							
一年以上二年未滿							
二年以上五年未滿							
五年以上十年未滿							
十年以上十五年未滿							
十五年以上							
合計							

至同 自明治 年 月 養育院乳母檢査表 何區擔當 市醫氏名印

區別	合格者		不合格者		合計
	二十年未滿				
三十年未滿					
三十年以上					
合計					

至同 自明治 年 月 死体檢案表 何區擔當 市醫氏名印





分 五 寸 三 尺 曲

報 歸 轉 者 患 病 何 何				第 何 號	考 備
處 死 區 體	月 死 日 亡	月 全 日 治	氏 忠 名 者		
				月 日	
				區 名	

( ) 號

一 寸 五 分

曲 尺 五 寸

所 印 校

五 分

分 五 寸 六 尺 曲

書 查 調 者 患 病 何 何									第 何 號	
月 轉 日 歸	氏 主 名 治 醫	現 室 住 人 員 及	養 患 者 所 緣	日 屈 時 出	系 傳 染	日 發 病 所 時	職 業	年 住 所 氏 名 齡		
									月 日	
									區 名	

曲 尺 五 寸

五 分

曲 尺 六 寸 五 分										五分 (口號)	五分	
書 報 申 查 調 者 患 病 何 何												第 何 號
氏 主 名 治 醫	現 室 住 數 人 員 及	養 患 者 所 來	系 傳 統 染 ノ	日 屈 時 出 ノ	日 發 病 所 時	職 業	年 齡	住 所 氏 名 籍	患 者 族 籍	第 何 號	月 日	
										五分	五分	

一寸  
曲尺五寸

所 監 印 發

備 考

- 一本様式ノ患者調査及申報用紙ハ傳染病ノ種類毎ニ之ヲ區別シ帳簿ヲ作り表紙ヲ附シ豫メ備ヘ置クヘシ
- 一本様式ノ番號ハ傳染病ノ種類毎ニ之ヲ分チ各一號ヨリ順次追記シ缺號ナラサル様注意シ又様式イロハ共同一ノ番號ヲ記入スヘシ
- 但本項ノ番號ハ毎年之ヲ改メ其年初發ノ患者ヲ以テ一號トス
- 一本様式區名欄内ノ月日ハ申報書發送當日ノ月日ヲ記入スヘシ

考 備	月 轉 日 歸

一女子名ハ片假名ヲ以テ記載スヘシ

一甲區ニテロ號申報書送致ノ後其患者乙區内ニ移轉シ乙區ニ於テ其患者全治又ハ死亡ノ報ヲ得タルトキハ之ヲ甲區ニ報告シ甲區ヨリハ號轉歸報ヲ「市衛生部」ニ發送スヘシ

一本様式ロ號報告書發送ノ後主治醫ヲ變更シタルモノ及前項患者移轉シタルモノハハ號轉歸報送致ノトキ其裏面ニ事由ヲ朱書スヘシ

一備考欄内ニハ本様式ノ事項外附記スヘキ要項アルトキハ記入スヘシ

●腸室扶斯赤痢虎列刺病患者報告備考欄内記入  
方 明治三十三年八月十三日勅使通達  
 總發 第千三百三十一號 區長宛

傳染病患者調査申報書中腸室扶斯赤痢虎列刺ノ三病ニ關シテハ自今備考欄内ニ飲料水ノ種別(堀井新舊水道ノ)

及雑用水ノ狀況(水ノ清濁并側腐朽ヲ)記入有之度此段及通達候也

追テ申報書調製ノ節ニ飲料水ノ種別及雑用水ノ狀況ノ一項ヲ設ケラレ度此段申添候也

●傳染病患者療養場所移轉報告方  
明治三十三年一月十八日勅使通達  
 總發 第七十號 區長宛

傳染病患者調査申報方ノ件ニ付客年衛發第五十三號ヲ以テ通達ノ次第モ有之候處自今調査申報後該患者療養ノ場所移轉シタルトキハ其移轉先キヲ記シ其都度報告相成度此段及通達候也

●傳染病患者收容方明治三十年六月四日  
 市會議決 第三十七號

本市ニ近接スル町村ニ於テ發生シタル傳染病患者ヲ市立病院へ收容方該町村ヨリ依頼アリタルトキハ當分ノ内相當ノ入院料ヲ徴シ之ニ應スルモノトス



●ベスト病患者家附近健康者隔離收容方  
明治三十二年十二月二十八日勅令  
 總務部第五百九十九號 區長宛  
 ベスト病患者ニ限リ特ニ廣尾病院ニ收容スルコトハ豫  
 テ通達ノ次第モ有之候處患者若クハ其附近ノ健康者隔  
 離ヲ要スル場合ハ該健康者ハ本所病院ニ收容ノ第二候  
 條此段及通達候也

●外國人傳染病院へ收容取扱方(其一)

明治三十二年十月十四日勅令  
 總務部第六十一號 駒込病院宛

外國人ニシテ傳染病ニ罹リ自宅治療爲シ能ハサル者又  
 ハ本人ノ希望ニ依ル等本市立傳染病院へ收容ヲ必要ト  
 スル場合ニ於テハ當分左項ニ依リ取扱ヘキコトニ被定  
 候條此段及通達候也

一外國人ノ傳染病患者ハ當分常設駒込病院へ收容スル  
 コト

但施療患者ニ限リ事宜ニ依リ臨時病院ニ收容スル  
 コトアルヘシ

一外國人ノ傳染病院收容患者ハ内國人同様自費ト施療  
 ニ區別シ取扱ヒ自費患者ハ從來特別患者入院料ヲ徴  
 收スルコト

一外國人自費患者ノ食料ハ從來ノ特別患者同様豫算金  
 一日參拾錢ニテ外國人適合ノ食品ヲ便宜院費ヨリ處  
 辨シ其他ニ食品ノ請求アルトキハ之ヲ自辨セシムル  
 コト

一外國人施療患者ノ食料ハ從來ノ施療患者賄費豫算金  
 一日拾貳錢ニテ院費ヨリ處辨スルコトニ定置若シ實  
 際ニ於テ差支ヲ生スルトキハ一日金參拾錢迄ノ範圍  
 内ニテ便宜處辨シ其費用ハ施療患者賄費ノ豫算内ヨ  
 リ支出スルコト

● 外國人傳染病院へ收容取扱方(其二)

明治三十二年十月十四日助役通達  
總發第千六百六十一號區長宛

外國人ニシテ傳染病ニ罹リ自宅治療爲シ能ハサル者又ハ本人ノ希望ニ依ル等本市立傳染病院へ收容ヲ要スル場合ニ於テハ常分左項ニ依リ取扱ヘキコトニ被定候條此段及通達候也

一 外國人ノ傳染病患者ハ當分常設駒込病院へ收容スルコト

但治療患者ニ限リ事宜ニ依リ臨時病院へ收容スルコトアルヘシ

一 外國人ノ傳染病院收容患者ハ内國人同様自費ト治療ニ區別シ取扱ヒ自費患者ハ從來ノ特別患者入院料ヲ徴收スルコト

● 傳染病患者送院時限

明治三十二年八月二十六日助役通達  
總發第千九百五十三號區長宛

患者送院方ノ義ハ明治三十年六月警視廳訓令甲第三十一號傳染病豫防手續第十七條及東京府訓令第十六號同手續第七條ノ規定ニ準據スヘキハ勿論ニ有之候へ共尙左項ニ從ヒ取扱ハレ度該兩廳ノ協議ヲ得此段及通達候也

一 盛夏炎熱季中ニ限リ午前ハ可成四時ヨリ送出シ九時迄ニ午後ハ五時ヨリ送出シ十一時迄ニ著院スヘキヲ要シ炎天中及深夜中ハ送院ヲ見合スヘキコト

但盛夏炎熱季外ト雖モ午後ハ可成十一時迄ニ著院ヲ要スルコト

● 醫科大學附屬醫院入院患者ニ就キ取調方

明治三十二年十二月二十三日助役通達  
總發第千九百九十三號ノ二區長宛

從來醫科大學附屬醫院ニ於テ傳染病患者ヲ入院セシム

ルトキハ所轄區役所ヨリ衛生掛員出張シ患者ニ關スル事項等取調ヲ爲シ來候向モ有之候處患者ニ就キ直接取調ヲ爲スハ病勢進重ノ媒因トナリ治療上妨害少カラサルノミナラス尙ホ他ニ不都合ヲ生スルコトモ有之ニ付一切謝絶致度旨帝國大學總長ヨリ東京府知事へ照會ノ趣モ有之候得共右ニテハ實際差支候場合モアルヲ慮リ相當回答相成候由ニ有之候條自今直接患者ニ就キ取調ヲナスニアラサレハ豫防上處要ノ事項ヲ知ルニ由ナキ場合ノ外可成他ノ方法ニ依リ調査シ若シ止ヲ得ス直接患者ニ就ク場合ニ於テハ主治醫員ノ立合ヲ求メ治療上妨害トナラサル様深ク注意有之度此段及通達候也

●傳染病患者發生跡消毒施行方

明治三十三年十二月二十八日助役通達  
總發 第千八百七十七號區長宛

從來傳染病患者甲地ニ於テ發生乙地ニ於テ發見シ通知

ヲ受ケタル場合ニ當リ跡消毒施行方ニ關シテハ各區均一ノ方針ヲ取ルヘキハ勿論ニ有之元來傳染病毒タルヤ一旦體外ニ出テ物品等ニ付着シタルトキハ容易ニ死滅セサルモノニシテ消毒施行上ニ於テ日時ヲ限ルモノニ無之隨テ該患者發生跡消毒ノ儀ハ日子經過ノ如何ニ拘ハラス施行方必要ニ有之候條右ハ必ス施行候様取計有之度此段及通達候也

●精神病患者取扱方概要

明治三十四年三月十六日助役通達  
總發 第千二百六十號區長宛

精神病患者取扱ニ係ル事務ノ儀ハ其規定夥多ノ法律命令ニ涉リ候ニ付萬一錯誤ヲ生シ候儀有之テハ不都合ニ付今般執務上ノ便ニ資センカ爲メ別紙取扱方概要ヲ叙述及配布候條自今右ニ依リ處理相成度此段申進候也

(別紙)

精神病者取扱方概要

一 區長ハ精神病者監護法三十二年三月三十八號第六條及第八條  
 第三項ニ依リ監護スヘキ同病者アルトキハ明治三十  
 三年六月二十九日勅令第二百八十二號第一條第一項  
 ニ依リ地方長官警察ノ認可ヲ受クヘシ  
 一 前項監置ニ際シ地方長官ノ認可ヲ受クル暇ナキトキ  
 ハ警察官署ノ同意ヲ經テ三十日之内ヲ監置スルコト  
 ヲ得又急迫ノ事情アルトキハ警察官署ノ同意ヲ經サ  
 ルモ單ニ通知ノミニテ七日之内假ニ之ヲ監置スルコト  
 ヲ得ヘキニ付先以テ之ヲ行ヒ追テ認可ノ手續ヲ履行  
 スルモ妨ナシ勅令第二百八十二號第一條第二項參看  
 一 地方長官ニ於テ警察官署ヲシテ區長ニ引渡シタル精  
 神病者及警察官署ニ於テ假ニ區長ニ引渡シタル同患  
 者ノ監置ニ關シテハ區長ハ更ニ地方長官ノ認可ヲ受

クルニ及ハス其都度患者ノ住所、氏名、年齢、監置ノ場所  
 及其方法ヲ報告スルモノトス勅令第二百八十二號第  
 一條第二條明治三十四年三月十二日警視廳訓令乙第  
 四號參看  
 一 區長ニ於テ監置シタル精神病者ノ監護義務者ヲ發見  
 シ又ハ監護義務者其義務ヲ履行シ得ルニ至リタルト  
 キハ該病者ハ其義務者ニ引渡スヘシ精神病者監護法  
 第一條第八條第二項參看  
 一 住所不明ノ爲メ區長ニ於テ監置シタル病者ニシテ  
 監護中其住所判明シタルトキハ速ニ其住所地ノ市區  
 町村長ニ引受方ヲ照會スルヲ要ス精神病者監護法第  
 六條參看  
 一 區長ニ於テ監置シタル精神病者治癒シ死亡シ又ハ行  
 方不明ト爲リタルトキ並監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方

法若クハ場所ヲ變更セントスルトキハ地方長官若クハ警察官署ヘノ報告通知又ハ認可ヲ受ケ同意ヲ經ルノ手續ヲナスヘシ(勅令第二百八十二號第三條參看)

一 區長ニ於テ監護スヘキ精神病者ノ監置所ハ當分ノ内府立巢鴨病院其他私立精神病院(山形病院小松川病院)ニ囑托スルヲ要ス(勅令第二百八十二號第四條及明治三十三年九月二十七日總甲第一八五號助役通牒參看)

一 區長ニ於テ精神病者ヲ監置シタルトキハ其病者ノ住所氏名並監置ノ病院名等速ニ當廳ニ報告スヘシ其轉歸シタルトキ又ハ監置ノ方法場所ヲ變更シ區長ノ監置ヲ離レタルトキ亦同シ

一 區長ニ於テ職務上取扱フヘキ精神病者ハ勅令第二百八十二號ニ明ナリト雖モ本市居住ノ同病者ニシテ無資力ナル者ハ府立巢鴨病院ニ於テ施療入院ヲ許スノ

途アルニヨリ同院ヘ入院セシムルノ手段ヲ資ルハ自他ノ便利タルヘシ

一 區長ニ於テ監置シタル精神病者中若シ行旅人ニシテ死亡シタルトキハ勅令第二百八十二號第三條ニ依リ手續ヲ爲ス外尙ホ法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法及內務省令第二十三號行旅死亡人及同伴者ノ救護並取扱方并東京府訓令第三十七號行旅病人行旅死亡人等取扱手續中行旅死亡人取扱ニ關スル規定ニ依リ處理スルモノトス

但本件ニ要セシ費用ハ行旅死亡人市費繰替金ヨリ支辨スルモノトス(行旅病人及行旅死亡人取扱法第一條第七條及第九條乃至第十八條內務省令第二十三號行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護并取扱方第九條乃至第十五條東京府訓令第三十七號行旅病

人行旅死亡人等取扱手續參看

一 區長ニ於テ監護スル精神病者監置ノ認可ヲ受ケ若クハ届出等ヲ爲スヘキモノニシテ其手續ヲ履行セサルトキハ處罰ヲ受クルヲ以テ苟モ注意ヲ怠ルヘカラス(精神病者監護法第十四條乃至第二十條參看)

一 區長ニ於テ監護シタル精神病者ノ監置諸費及病院入院料等ノ費用ハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用スヘキニ付豫テ當廳ヨリ配付シ置キタル市費ヨリ繰替置追テ之ヲ辨償セシムヘシ(精神病者監護法第十條第二項參看)

但東京府巢鴨病院へ委託護送シタル病者ノ入院料ハ其病者ノ扶養義務者ナク結局公共團體ノ辨償ヲ受クヘキ者ニ對シテハ市費ヲ以テ繰替同院へ納付シ又ハ公共團體へ請求スルノ手續ヲナスニ及ハサ

ルモノトス

一 市費ヨリ繰替ヲ爲シタル精神病者ノ費用ハ左ノ順序ニ依リ之レカ償還ノ方法ヲ資ルヘシ

一 先以テ被監護者并ニ扶養義務者ノ身元ヲ取調其被監護者又ハ扶養義務者ヨリ辨償セシムルコト(精神病者監護法第十條第一項參看)

二 被監護者又ハ扶養義務者ニシテ直ニ之ヲ辨償セサルトキハ市税徴收ニ關スル規定ニ依リ徴收スルコト(行旅病人及行旅死亡人取扱法第十五條第二項市制第百二條參看)

三 市税徴收法ニ依リ徴收スルモ市費繰替金ニ不足シ生スルカ又ハ全部ヲ辨償シ得サルトキ或ハ被監護者ノ住所居所不明若クハ扶養義務者ナキトキハ明治三十二年十月東京府訓令第三十七號行旅病人行

旅死亡人等取扱手續ノ規定ニ準據シ被監護者ノ住所判明セルトキハ其住所地ノ府縣公共團體被監護者ノ住所不明ナルトキハ東京府ノ公共團體へ請求スルモノトス(内務省令第二十三號行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護并取扱方第八條勅令第二百七十七號第一條參看)

四住所所判明セサル被監護者ニシテ金銭若クハ有價證券其他ノ所持品アルモ被監護者ハ無能力者ナルカ故ニ民法ニ依リ相當ノ手續ヲナスニアラサレハ右所持ノ金品ヲ以テ直ニ監護費用ニ充ツルコトヲ得サルモノトス

五住所所判明セサル被監護者死亡シタルトキハ行旅死亡人ノ規定ニ依リ告示公告等ヲナシ其死亡人取扱ニ係ル費用ニ限り死亡人遺留ノ金品ヲ以テ之

ニ充ツルコトヲ得

但死亡人遺留ノ金品ハ生前監護ノ費用ニ充ツルコトヲ得ス(行旅病人及行旅死亡人取扱法第九條第十一條第十二條第十三條第十六條內務省令第二十三號第九條第十二條第十三條參看)

一市費ヨリ繰替ヲ爲シタル精神病者ノ費用繰替金ノ辨償ヲ受ケタルトキハ仕譯書ヲ添付シ速ニ市役所へ償還ノ手續ヲナスモノトス

一市費繰替金徴收ニ付テハ可成速ニ其手續履行ニ著手シ、市費償還方ニ遅延ナカラシムルヲ要ス

一前各項ハ精神病者及其死亡人ノ取扱并費用辨償方ニ付其概要ヲ叙述シタルニ過キサルヲ以テ常ニ左ノ法律規定ヲ熟知シ錯誤ナカラシメ又事務整理ニ關シテハ簿冊ヲ明ニシテ他日ノ參照ニ便スルヲ要ス

(參照)

明治三十三年三月九日 法律第三十八號	精神病者監護法
明治三十三年六月二十八日 內務省令第三十五號	精神病者監護法施行規則
明治三十三年六月二十九日 勅令第二百八十二號	<small>(精神病者監護法第六條及第八條第三項ニ依ルレテ監護ニ關スル條)</small>
明治三十二年三月二十七日 法律第九十三號	行旅病人及行旅死亡人取扱法
明治三十二年六月十九日 內務省令第二十三號	<small>(行旅病人ノ救護并取扱及)</small>
明治三十二年六月十九日 內務省令第二十四號	<small>(外國人タル行旅病人ノ行旅死亡人及同伴者ノ救護并取扱ニ關スル特別)</small>
明治三十二年六月十六日 勅令第二百七十七號	<small>(行旅病人ノ死亡人等取扱及)</small>

明治三十二年十月二十日 東京府訓令第三十七號	行旅病人行旅死亡人等取扱手續
●精神病者私立病院へ便宜送院方	
<small>明治三十三年九月二十七日勅令通牒 總甲第八十五號ノ二區長宛</small>	
精神病監護法第六條第八條ニ依リ區長ニ於テ監護スヘキ同患者ノ儀ハ從來府立巢鴨病院へ送院ノ筈ニ候得共若シ同院ニ於テ患者滿員ノ爲メ差支アルトキハ左ノ私立病院ニ於テ患者一日一人金六拾錢ノ入院料ヲ以テ監置治療ノ儀承諾致候條自今巢鴨病院ニ差支ノ場合ハ右私立病院中へ便宜送院相成度此段及通牒候也	
病院名	
一 牛込區若松町	私立戸山病院
一 下谷區下根岸町	私立根岸病院
一 北豊島郡蒲川村字田端	私立腦病院



一南葛飾郡小松川村

私立小松川精神病院

追テ私立病院ノ儀モ時ニ依リ滿員ノ儀モ難計ニ付送院ノ際ハ先以テ電話ニテ問合相成可然爲念申添候也

●精神病者異動報告方

明治三十三年十月四日助役通達  
總乙第六千二百十五號ノ二區長宛

精神病監護法第六條第八條ニ依リ區長ニ於テ同患者ヲ監置シ又ハ該患者治愈死亡行術不明其他ノ事故ニ依リ監置ヲ廢止變更ノ場合ハ其都度患者ノ氏名監置ノ病院及取扱ニ係ル事由ノ要領ヲ記シ當廳ヘ報告有之度此段及通達候也

●精神病者取扱費辨償金收入整理方

明治三十三年十一月十四日助役通達  
會發第千六百七號區長宛

救助費中精神病者取扱費ノ辨償金ハ市歳入雜收入救助費收入中償還金及同年度後收入ノ科目ヘ收入整理相成

度此段爲念及通達候也

●傳染病豫防手續警察署長ト協議處理方

明治三十年六月十五日  
市訓令甲第十一號

區 役 所

東京府訓令第十六號ヲ以テ傳染病豫防手續定メラレ候就テハ其區内施行ニ關シテハ所轄警察署長又ハ警察分署長ト協議シ便宜處理スヘシ

●清潔方法施行表報告様式

區 役 所

明治三十三年十月十九日  
市訓令第三十號  
今般東京府訓令第四十三號ヲ以テ報告例改定相成候ニ付テハ清潔法施行表ノ儀ハ自今別紙様式ニ依リ調製シ結了後五日以内ニ報告スヘシ

(別紙)

何區清潔方法施行表ノ一



- 第一 患家ニ臨ミタルトキハ可成言語動作ヲ慎ミ荷モ粗暴ノ振舞アル可カラス
- 第二 患家ニ對シ消毒方法ヲ施行スルニ當リ人夫ヲ使  
用スル場合ハ充分注意指揮監督ヲナシ粗漏ナカラン  
コトヲ要ス
- 第三 患者發生ノ際ハ警察官ノ出張ヲ待チ諸事協議ヲ  
遂ケテ後着手スルヲ要ス  
但豫防委員檢疫委員等ノ出張ニ會シタルトキハ共  
ニ協議ヲ遂クルヲ要ス
- 第四 石炭酸水ハ必ス二十倍(石炭酸一磅水凡ソ五トシ  
升ニ溶解シタルモ)ニ  
強弱ナキヲ要ス
- 第五 石灰乳ハ必ラス十倍(生石灰四百八十目ニ水一斗  
四升八百目ヲ加ヘ乳狀トナ  
シタル)トシ濃淡ナキヲ要ス
- 第六 患者ノ居室ハ送院後疊建具其他室内各部並ニ器

- 物等ハ石炭酸水ヲ以テ叩嗶ニ拭淨スルヲ要ス若シ患  
家不潔ナルカ又ハ累年同病患者續發シタル家ハ消毒  
法ヲ了リタル後同時ニ消毒的清潔法ヲ行ヒ床下ノ塵  
芥其他不潔物等掃除シ燒却シ得ヘキモノハ可成燒却  
シ其他ノモノハ一定ノ場所ニ運搬埋沒又ハ投棄スヘ  
シ
- 但患家接近ノ家屋ニシテ不潔ナルトキハ共ニ消毒  
的清潔法ヲ行フヲ要ス
- 第七 患家ノ井戸流臺所流芥溜等ノ掃除ヲ要スルトキ  
及井戸浚深ノ必要ヲ認ムルトキハ消毒方法結了後速  
ニ之ヲ行フヲ要ス
- 第八 總テ石灰乳生石灰末等ヲ撒布スルハ必要ノ部分  
ニ止メ其他ノ部分ニ濫用セサルヲ要ス
- 第九 患者ノ上リタル便所ハ各部共石炭酸水ヲ撒布シ

テ町啤ニ拭淨シ糞池ニハ定量ノ生石灰末又ハ石灰乳ヲ入レ充分攪伴シ又糞池ノ周圍ニモ同シク生石灰末又ハ石灰乳ヲ撒布シタル後塵芥等ヲ掃除シ燒却スルヲ要ス

但糞池内糞汁充溢スルトキハ其半量ヲ他器ニ汲ミ分ケ各消毒藥ヲ入レ攪伴スルヲ要ス

第十 患家ニ於テ使用セシ帚雜巾布巾並ニ便所草履雜布手拭等ノ如キハ可成燒却スヘシ若シ燒却シ能ハサルトキハ石炭酸水ニ浸漬シ充分消毒スルヲ要ス手洗水ハ石炭酸水ヲ以テ器物ト共ニ消毒スルヲ要ス

第十一 家人及他ヨリ來リ居ル者ノ衣類ハ之ヲ脱カシメ手足ハ石炭酸水ニテ消毒シ顔面及口内ハ温湯ニテ洗滌シタル後他衣ト交換セシメ脱衣ハ石炭酸水ヲ撒布シタル上消毒所ニ送クルヲ要ス

但前日迄著シ居リタル衣類モ共ニ消毒スルヲ要ス  
第十二 患者及家人看護人等ノ使用シタル食器類ハ悉皆灰汁(木灰一分ニ水四分ヲ)ニ浸漬スルカ又ハ熱湯ニ入レ煮沸スルヲ要ス

第十三 消毒藥使用ノ分量ハ家屋ノ大小物品ノ多寡ニ依リ一定シ難シト雖モ大凡左ノ標準ニ據ルヲ要ス  
一家屋及物品ニ撒布スル石炭酸水ノ量ハ凡ソ三四坪ノ室便所及二三名ノ家人ニ於ケル衣服ニ對シ四〇〇〇(貳升強)

一床下ニ撒布スル石灰乳ハ凡ソ一坪ニ對シ八〇〇〇〇(四升強)同生石灰末ハ一六〇〇〇(凡四百拾匁強)

●傳染病疑似患者及健康診斷處理方

明治三十三年六月二十八日勅發通牒  
總發第九百五十五號區長宛

本年四月改正ノ市醫職務章程第三條中三項及四項ニ掲

クル件ハ平時各警察署ニ該當検査委員ノ配置ナキ時ニ於テ市醫ヲシテ處理セシメ得ル儀ニ有之候條御承知相成度爲念此段及通知候也

追テ特ニ區長ニ於テ必要ト認メ又ハ検査委員配置後ト雖モ各警察署ニ於テ差支ヲ生シ市醫要求アリタル場合ハ本文ノ限ニ無之候條此段申添候也

●死亡者病類日計表様式明治三十二年十二月二十日市訓令第十三號

區 役 所

自今區内死亡者病類日計表別紙書式ニ依リ調製報告スヘシ

(別紙)

年月日	死亡者病類日計表	何區役所
病名	發病日 死亡日	町名 職業 死亡者名 年齢 主治醫
脚氣		

計	何何	何何	何何	何何	何何	何何	何何	何何	何何

● 獣疫ニ關スル届出ヲ受ケタルトキ報告方

明治三十二年五月二十六日勅令第三號ノ三區長宛 總發第五百七十三號

今般告示第三十七號ヲ以テ明治二十九年三月法律第六十號 獣疫豫防法中市長ニ屬スル事務取扱方委任相成候ニ付テハ之ニ關スル届出ヲ受ケタル場合ハ警視廳ヘ報告ト同時ニ當役所ヘモ報告有之度此段及通達候也

● 傳染病豫防ノ爲メ開キタル講話會等狀況報告

明治三十三年十月二十五日 方市訓令甲第五十八號

區 役 所

傳染病豫防ノ爲メ其區内ニ於テ幻燈會又ハ講話會ヲ開キタルトキハ開會後五日以内ニ其狀況ヲ報告スヘシ

●市物品出納規程駒込病院消毒所ニ準用方

明治三十年六月九日  
四發第九百五十八號達

駒込病院  
消毒所

其所屬物品ノ出納ハ別紙東京市物品出納規程ニ據ル  
ヘシ

(別紙略ス)

●駒込病院會計取扱手續明治三十四年四月四日  
市訓令甲第二十一號

駒込病院

其院會計取扱手續左ノ通定ム

會計取扱手續

第一條 病院ノ經費ハ毎年度定ムル所ノ豫算ニ依リ收  
支ヲナスヘシ

第二條 左ノ條件ハ施行前當廳ノ認可ヲ受クヘシ

一 豫算内科目ノ流用

二 需用品ノ新調及修繕ニシテ見積價格金貳拾圓以上  
ヲ要スルトキ

三 小破修繕一ヶ所金參拾圓以上ヲ要スルトキ

四 不用物品ヲ賣却スルコト

第三條 需用品ノ購入價格金參拾圓以上ハ公入札ニ附  
スヘシ

但特別ノ事情ニ依リ公入札ニ附シ難キ場合ハ其旨  
ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 物品ノ購入ハ豫メ見積書ヲ徴シ現品納入ノト  
キハ納付書ヲ徴スヘシ

第五條 經費金ノ支拂ハ正當本人ヨリ請求書ヲ徴シ調  
査ノ上主任者之ニ檢印ヲ捺シ其都度當廳へ進達支拂  
ヲ申請スヘシ

第六條 經費收入金ハ正常本人ヨリ納付書ヲ徴シ主任者之ニ檢印ヲ捺シ其都度當廳ヘ納付スヘシ

但入院料收入ニ關シテハ別ニ定ムル所ノ規定ニ據ルモノトス

第七條 經費支拂金ニシテ整理上其他請取人ノ都合ニ依リテハ毎十五日若クハ每一ヶ月分ヲ取纏請求セシムルコトヲ得

第八條 經費ノ收支精算ハ第一號書式ニ依リ調製シ毎年五月三十日限り當廳ヘ進達スヘシ

第九條 毎年度豫算材料トシテ前前年度ノ實費及前年度ノ豫算ト當該年度ノ實況ヲ參酌シ第二號書式ニ依リ調製シ毎年八月三十一日限り當廳ヘ進達スヘシ

第十條 左ノ帳簿ヲ設ケ置計算整理スルモノトス  
但整理上ノ都合ニ依リ便宜補助簿ヲ設クルコトヲ

得

一歲出豫算内譯簿

本簿ハ第三號書式ニ依リ調製シ各種目毎ニ口取ヲ設ケ豫算欄ニ市役所令達ノ豫算金ヲ支出欄ニハ市役所ヘ進達ニ係ル正常取扱人各請求書ノ金額ヲ記入シ摘要欄ニハ其事由ヲ簡明ニ記シ而シテ日ノ現殘額ヲ其欄内ニ記入スヘシ

他科目流用ヲ爲シタルトキハ其金額ヲ支出欄内ニ朱記シ殘額ヨリ控除スヘシ他科目ヨリ流用ヲ受ケタルトキハ其金額ヲ豫算欄内ニ墨記シ殘額ニ加算スヘシ

帳簿ニ誤記ヲ爲シ其際直チニ之ヲ發見シタルトキハ其誤記セル事項又ハ金額ノ正中ニ朱線二條ヲ直畫シ其傍ニ正確ナルモノヲ墨記シ主任者之ニ捺印

スヘシ決シテ貼紙又ハ改描スルヲ得ス  
 帳簿ニ誤記ヲ爲シ他日之ヲ發見シタルトキハ其正  
 誤ノ方法ハ彙ニ記入シタルモノ誤記ノ事由及其金  
 額ヲ朱記シ更ニ正確ナル事由及其金額ヲ墨記スヘ  
 シ

一歳入豫算内譯簿

本簿ハ第四號書式ニ依リ調製シ各種目毎ニ口取ヲ  
 設ケ豫算欄ニハ市役所令達ノ豫算金額ヲ記入シ收  
 入欄ニハ納人ヨリ收入シタル金額ヲ納付欄ニハ市  
 役所へ納付ノ金額又ハ納人へ下戻ニ係ル過納金額  
 ヲ記入シ摘要欄ニハ其事由ヲ簡明ニ記シ差引殘ノ  
 欄ニハ豫算及納付金ノ日日ノ計算殘額ヲ記入スヘ  
 シ  
 但下戻欄ノ事項ハ朱記スヘシ

豫算殘ハ豫算額ニ對スル實收入金ノ差引ヲ明瞭ナ  
 ラシムルモノニシテ一旦收入ヲナシ控除シタルモ  
 ノト雖モ他日過納金トナリテ納人へ返付シタルト  
 キハ更ニ殘額ニ加算スヘシ  
 諸收入金ハ其都度速ニ市役所へ納付ノ手續ヲ了ス  
 へキモノナルモ己ムヲ得テ事故ノ爲メ未納トナリ  
 タルモノ又ハ過納金アリテ市役所ヨリ受入タルト  
 キハ納付殘ノ欄ニ其累計ヲ掲クヘシ  
 誤記訂正ノ例ハ歳出豫算内譯簿ニ同シ

一患者委托金簿

本簿ハ第五號書式ニ依リ調製シ受ノ欄ニハ入院患  
 者委托ノ金額ヲ記シ拂ノ欄ニハ患者へ返戻ノ金額  
 ヲ記シ摘要欄内ニハ患者ノ氏名等事由ヲ簡明ニ記  
 入スヘシ





(第二號書式ノ二)

明治何年度何病院費豫算調書

費目	豫算額	決算額	増減	附記
	増減ノ理由	増減ノ理由	増減ノ理由	
駒込病院費				
(一) 何何費				
何何費				
何何				

歳入

科目	前前年度 精算額	前年度 豫算額	本年度 豫算額	前前年度 増減	前年度 増減
	何病院費收入				

前前年度實費ト前年度豫算額ニ比シ増減ノ理由ヲ記載スヘシ

(第二號書式ノ二)

明治何年度何病院費豫算調書

科目	前前年度 精算額	前年度 豫算額	本年度 豫算額	前前年度 増減	前年度 増減
	何等患者入院料				
全上					
消毒料					
全上					
全上					

歳出

科目	前前年度 精算額	前年度 豫算額	本年度 豫算額	前前年度 増減	前年度 増減
	經常費				

何病院費									
⊖ 俸給									
醫員月給									
前前年度精算及前年度豫算額ニ比シ増減ノ理由ノ記載スヘシ									
調薬生月給									
全上									
何何									
全上									
何何									
全上									
⊖ 雑給									
門番月給									

全上									
小使日給									
全上									
何何									
全上									
何何									
全上									
臨時費									
科目									
何病院費									
何何									
前前年度精算額及前年度豫算額ニ比シ増減ノ理由ヲ記載スヘシ									
前前年度精算額		前年度豫算額		本年度豫算額		前前年度精算額ニ對スル増減		前年度豫算額ニ對スル増減	

何 何	全 上	何 何	全 上

備考 給料及備品消耗品其他ノ費目共起算ノ細目理由  
物品並仕様ノ大要等ヲ欄内ニ列記スヘシ但備品  
消耗品等ノ品目ノ如キハ別ニ細目表ヲ添付スル  
モ妨ナシ

(第三號書式)

明治 何 年度

歳出豫算内譯簿



歲入豫算內譯簿

(第四號書式)

明治何年度

費品耗消 (費品耗消並品備)

年月日	番號	摘要	豫算	支	出	殘金
何年何月何日	市開令第	豫算令達高	二五〇〇〇			
何年何月何日	第請何號書	何年何月分經費金ノ内 何品代何某渡			一〇〇〇〇	二五〇〇〇
何年何月何日	第全何號	何年何月分經費金ノ内 何品代何某渡			五〇〇〇	二〇〇〇〇
何年何月何日	第全何號	何年何月分經費金ノ内 何品代何某渡			五〇〇〇	一五〇〇〇
何年何月何日	第市何號通達	何々費ノ流用			五〇〇〇	一〇〇〇〇
何年何月何日	第請何號書	何年何月分經費金ノ内 何品代何某渡			一〇〇〇〇	五〇〇〇

何何入院料

年月日	摘要	豫算	收入	下納	戻付	差引	残
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料	20000	10000		10000		10000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		15000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		10000		10000		25000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		30000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		35000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		40000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		45000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		50000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		55000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		60000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		65000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		70000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		75000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		80000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		85000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		90000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		95000
何年何月何日	何某 何月何日マテ 入院料		5000		5000		100000







● 自費患者入院手續 明治三十二年九月二十六日  
市訓令甲第三十五號

駒込 本所 病院

自費患者入院手續左之通定ム

但明治三十年八月四發第一四一四號自費患者入院料  
徴收規定ハ廢止ス

自費患者入院手續

第一條 本市立傳染病院自費患者ヲ別チテ特別并一等  
二等ノ三種トシ之レカ取扱ハ概テ左ノ方法ニ據ルヘ  
シ

但特別患者ハ駒込病院ノ外收容セス

特別

本患者ハ病室ハ特別患者室一室ヲ供給シ看病婦ハ  
一患者ニ一人ヲ附添ハシメ食料被服寢具ハ特等品  
ヲ給ス

一等

本患者ハ病室ハ自費患者室一室ヲ供給シ看病婦ハ  
患者二人ニ一人ノ割ヲ以テ附添ハシメ食料被服寢  
具ハ一等品ヲ給ス

二等

本患者ハ病室ハ自費患者室一室ニ二人ノ割ニテ供  
給シ看病婦ハ患者三人ニ一人ノ割ヲ以テ附添ハシ  
メ食料被服寢具ハ二等品ヲ給ス

第二條 自費患者ハ市内發生ノモノニシテ區役所ヨリ

送院書ニ證明アルモノ又ハ患者若クハ其親族故舊ノ  
願ニ依リ病室ノ都合ヲ計リ收容スヘシ

第三條 自費患者入院ノ際ハ左ノ書式ニ依リ證書ヲ徴  
スヘシ

但保證人ハ市内居住者ニシテ相當ノ資力アリト認

ムル者ニ限ル

入院證

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)  
(族籍、職業、戸主何某ノ父母、  
 妻子、兄弟、姉妹)

印紙

病名

何

何年何月生

右ノ者自費何何(特別又ハ一則)患者トシテ入院候ニ付テハ  
 貴院規則相守候ハ勿論本人身上ノ儀ハ一切引受入院料  
 ハ規定ニ從ヒ納付可致候萬一不納延滞等ノ節ハ保證人  
 引受無相違辨納可致候也

年 月 日

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)  
 何 某

住所同 上

保證人 何 某

御中

東京市何何病院

第四條 自費患者ノ入院料ハ左ノ區別ニ依リ十日分ッ  
 ヲ前納セシムヘシ

特別患者 一日金壹圓五拾錢

一等患者 一日金壹圓

二等患者 一日金五拾錢

第五條 自費患者ノ入院料ハ事務長(事務長ナキトキハ事務員首席以下同シ)  
 ニ於テ徵收シ十日分取纏メ當廳ヘ納付スヘシ

第六條 既納入院料ノ過納トナリ還付ヲ要スルトキハ  
 納人ヨリ金額事由ヲ記シタル請求書ヲ差出サシメ事  
 務長證明シテ當廳ヘ進達スヘシ



第三號

シ 一個月毎ニ小計ヲ付シ年度ノ終リニ合計ヲ付スヘ

一金 内譯 自費患者入院料

一金 内 特別又患者入院料

内 二等患者入院料

金額	事由	由納人
	患者何某明治 明治 年 月 日 分 マテ 何日分	

右納付候也

何病院 事務長 何 某

市參事會 市長宛

第四號

金額	事由	由納人

第 號 何 某

ⓐ事務長又ハ事務員首席印

自費何等患者何某 年 月 日ヨリ 年

月 日マテ何日分入院料	
明治 年 月 日	
事務員 主席印	
第 號	證
一金何程事務長又ハ事務員首席印	
自費何等患者何某 年 月 日ヨリ 年	
月 日マテ何日分入院料	

右額收候也

明治 年 月 日

何病院事務員 印

何 某殿

●傳染病院自費患者等級區別

明治三十二年九月十九日勅使通達  
總發 第五十二號 區長宛

本市立傳染病院收容患者ノ儀ハ貧困ニシテ入院料ヲ自  
 辨シ能ハサル者ヲ施療トシ其他ハ自費患者トシ入院料  
 徴收ノ儀ハ曾テ及御協議置候處自費患者中更ニ左ノ區  
 別ニ依リ收容可致候條今後入院者ハ送院ノ際本人若ク  
 ハ其家族等ニ就キ取調自費等級若クハ施療ノ區別ヲ送  
 院書ニ記入シ回付相成度此段及通達候也

一特別自費患者 入院料 一日 金壹圓五拾錢

但特別患者ハ駒込病院ニ限ル又患者入院ノ際特別室満員ノトキハ一等自費患者室ヲ代用スルコトアルヘシ

- 一 一等自費患者 入院料 一日 金壹圓
- 一 二等自費患者 入院料 一日 金五拾錢

●入院料及消毒料徴收方明治三十年七月十二日市會議決第四十四號

本市立病院自費患者入院料及消毒所被托消毒品消毒料ハ病院若クハ消毒所ノ事務掛ヲシテ之ヲ領收シ「第四課長」ニ納付セシムルコトヲ得

●傳染病豫防消毒費支出手續明治三十二年四月五日市訓令第四號

區 役 所

傳染病豫防消毒費支出手續左ノ通相定ム

傳染病豫防消毒費支出手續

第一條 本市内ニ於テ傳染病豫防法第一條ニ掲クル傳

染病ニ罹リタル者清潔方法消毒方法執行ニ際シ當該吏員ノ指示ニ應シ直チニ施爲シ能ハサル時ハ區長ハ市費ヲ以テ之ヲ處辨スヘシ

第二條 前條清潔方法消毒方法ニ要スル費用中左ニ掲クルモノハ貧困ニシテ支辨シ能ハサル者ノ外ハ忠家ヨリ之ヲ辨償セシメ其他ノ費用ハ總テ市ノ負擔トス

- 一 忠家ニ施行スル消毒人足賃
- 一 遮斷雜役人足賃
- 一 遮斷人賄
- 一 葬具買上代
- 一 火葬料

第三條 此手續ニ依リ區長ニ於テ處辨スル費用ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但制限ニ依リ難キモノハ其事由ヲ具シ市參事會ノ

認可ヲ受クヘシ

一 市醫事故疾病等ノ爲メ臨時雇入ヲナシタル醫員檢診手當ハ一回ニ付金壹圓トス

但本號ノ手當金ハ一家内ニ於テ同時ニ數人ヲ檢診ノ場合モ一回分ヲ支給ス(三十二年四月十一日市訓令第五號ヲ以テ)

(本項中改正)

一 患者送院人足及死體運搬人足ハ一患者ニ付四人以内トス

一 消毒施行并汚物運搬人足ハ通シテ虎列刺赤痢ハ三ト病ハ四人以内其他ノ傳染病ハ三人以内トス

一 虎列刺赤痢ハ三ト病患者ニ係ル人足賃ハ金六拾錢其他ノ傳染病患者ニ係ル人足賃ハ金四拾錢以内トス

一 遮斷雜役人足賃ハ金三十錢以内トス

一 遮斷人賄ハ一食ニ付金三錢五厘トス

一 葬具ハ棺桶及付屬品共一人ニ付金壹圓二十五錢以内トス

一 火葬料消毒藥品救藥品燒却用物品汚物燒却費ハ都テ實費ヲ以テ支辨ス

第四條 清潔方法消毒方法ニ要スル器具ノ新調修繕及消耗品并ニ消毒藥品ノ購入ハ見積金五圓迄ハ區長ニ於テ直チニ處辨シ同額以上ニ係ルモノハ市參事會ノ認可ヲ經ヘシ

第五條 病毒ニ汚染シ消毒スルモ再用ニ堪ヘサルヲ以テ燒却セシメタル被服蒲團其他ノ物品ニシテ貧困ノ爲メ本人又ハ遺族ニ於テ日用ニ差支アルモノニ限リ區長ハ市費ヲ以テ其代價ヲ賠償スルコトヲ得

第六條 第三條第四條第五條ニ依リ區長ニ於テ處辨シ



タル費用ハ豫テ下渡置タル豫備金ヨリ支出シ別ニ定  
ムル所ノ規定ニ依リ整理スヘシ

第七條 第二條ニ依リ患家ニ於テ負擔スヘキ費用ヲ市  
費ヨリ處辨シタルトキハ十五日以内ニ辨償セシメ其  
辨償金ハ一个月分ヲ取纏メ翌月五日限り仕譯書ヲ添  
付シ市役所ヘ納付スヘシ

●豫防消毒費領收證書式

明治三十一年四月七日書記官通牒  
内五發第九十七號 區長宛

豫防消毒費領收證ノ義ハ從來一定ノ書式無之ニ依リ區  
區ニ相成整理上差支候條向後別紙書式ニ依リ調製セシ  
メラレ度此段申入候也

(別紙)

證

一金何圓也

豫防消毒費

何月何日何病患者何町何番地  
何ノ誰(長男某等)ニ係ル分

内

金何程

何何病院へ送院人足賃何人分

金何程

但一人ニ付金何程  
患家消毒人足賃何人分

金何程

消毒所へ消毒品運搬人足賃何人分

金何程

何何火葬所へ焼却品運搬人足賃何人分

金何程

但何何火葬所へ死体運搬人足賃何人分

金何程

蠟燭何挺代等(消耗品ニ  
係ル類)

金何程

棺桶代等(器具ニ  
係ル類)

金何程

菰繩桶等(燒却用品  
ニ係ル類)

右正ニ領收候也

請負人

何區何町何番地

明治 年 月 日

何ノ誰印

何區長宛

備考(一患者毎ニ一枚ヲ要ス)

證

一金何圓也

豫防消毒費人力車賃

内

金何程

何月何日何病患者何町何番地何某方迄  
警察署ヨリ逕査何ノ誰乘車往復(片道)

金何程

全

金何程

全

右正ニ領收候也

請負人

何區何町何番地

明治 年 月 日

何ノ 誰印

何區長宛

備考

一患者數名分ヲ纏メ一枚ニテ請取ルコトヲ得

一醫員手當救療藥費火葬料汚物燒却料共領收證ハ本式ニ依ル

一遮斷雜役人足賃遮斷人賄患者所持品賠償金備品新調修繕(金壹圓未滿)ハ各別ニ領收證ヲ要ス

●傳染病消毒品取扱手續明治三十二年四月二十二日  
市訓令第五十一號

區 役 所

消 毒 所

傳染病消毒品取扱手續左ノ通相定メ本年五月一日ヨリ施行ス

但明治三十年六月本市訓令甲第十二號ハ廢止ス

傳染病消毒品取扱手續

第一條 區役所ハ區内ニ於テ傳染病毒ニ汚染シ又ハ其疑アル物品ニシテ患者ニ直チニ消毒方法ヲ施行セシ

メ難キモノハ忠家ノ住所氏名物品ノ品目員數ヲ記シタル送狀ヲ添へ本市消毒所へ送付スヘシ

第二條 消毒所ハ各區役所ヨリ前條物品ノ送付ヲ受ケタルトキハ速ニ消毒方法ヲ行ヒ之ヲ返送スヘシ

第三條 區役所ニ於テ消毒所ヨリ消毒方法ヲ行ヒタル物品ノ返送ヲ受ケタルトキハ別紙價格表ニ依リ消毒料ヲ徵收シタル上物品ハ所持人ニ交付スヘシ

但價格表ニ記載ナキ物品ハ該價格表ニ準シ徵收スヘシ

第四條 貧困ニシテ消毒料ヲ支辨シ能ハサルモノハ之ヲ免除ス

第五條 消毒物品受接ノ際ハ便宜ノ書冊ニ品目員數ヲ記入捺印ヲナシ其證據ヲ明瞭ニナスヘシ

第六條 區役所ニ於テ徵收シタル消毒料ハ別紙書式ニ

依リ一个月分取經メ翌月十日限リ市役所へ報告スヘシ

第七條 消毒料徵收ニ關スル手續ハ本市歳入歳出納規則及同取扱細則ニ據ルヘシ

(別紙)

消毒品價格表

品目	消毒料	消毒料	品目	消毒料	消毒料
	消毒料並 洗濯料	消毒料並 洗濯料		消毒料	消毒料並 洗濯料
夜具	〇四〇	一八〇	座蒲團	〇〇五	〇二〇
抱卷	〇三〇	一四〇	括リ枕	〇〇五	〇〇七
五布蒲團	〇三五	一〇〇	ドテラ	〇二五	一一〇
四布同上	〇三〇	〇八〇	全部毛布	〇三〇	〇五五
三布同上	〇二五	〇七〇	半部毛布	〇一五	〇三〇
二布同上	〇二〇	〇五〇	敷布	〇一〇	〇一七
小蒲團	〇一〇	〇四〇	綿入	〇二〇	一一〇

綿入羽絨	〇二五	〇八〇	〇〇五	〇〇七
同半纏	〇二五	〇八〇	〇〇五	〇〇七
線入胸若	〇二五	〇八〇	〇一五	〇二八
裕	〇二五	〇三〇	〇〇五	〇二二
同羽絨	〇二〇	〇二〇	〇〇五	〇一〇
同半纏	〇二〇	〇三〇	〇〇五	〇一〇
單	〇二〇	〇三〇	〇〇五	〇一〇
同羽絨	〇〇五	〇一五	〇〇五	〇〇七
同半纏	〇〇五	〇一五	〇〇五	〇〇七
女帶	〇二〇	〇一五	〇一〇	〇一六
男帶	〇〇五	〇〇八	〇一〇	〇二〇
女帶	〇二〇	〇一五	〇〇八	〇一六
袖ナシ	〇二〇	〇四〇	〇〇六	〇二二
蕪蒲團	大〇八〇 〇六〇	一五〇 一二〇	〇二〇	一〇〇
帽子	〇〇五	……	ネンネコ半纏 〇二〇	一〇〇
頭巾	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇七
襟卷	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇七
肩掛	〇一五	〇一五	〇一五	〇二八
褌	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇二二
腹掛	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇一〇
股引	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇一〇
腰卷	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇一〇
足袋	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇七
西洋手拭	〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇〇七
五布風呂敷	〇一〇	〇一〇	〇一〇	〇二〇
四布同上	〇〇八	〇〇八	〇〇八	〇一六
三布同上	〇〇六	〇〇六	〇〇六	〇二二
敷物半部毛 布ノ大サ	〇二〇	〇二〇	〇二〇	一〇〇

洋服	〇四〇	一〇〇	〇三〇	〇六〇
外套	〇二〇	〇八〇	〇〇五	〇〇七
二重トシビ	〇四〇	一二〇	〇〇二	〇〇五

東京市消毒所消毒料徴收報告書

消毒所消毒料

品目	個數	消毒料 (消毒料)	品目	個數	消毒料 (消毒料)
内			氏名納		

品目	個數	消毒料 (消毒料)	品目	個數	消毒料 (消毒料)

右報告候也

年 月 日

何區長氏名

市參事會

市長 宛

●被托消毒品消毒料徴收方

明治三十年七月二十九日市參事會通達  
内四發第千四百十五號消毒所へ

被托消毒品消毒料ハ左ノ手續ニ據リ徴收方取計フヘシ  
第一 被托消毒品ノ消毒料ハ別表ニ據リ之ヲ前納セシムヘシ

但規定外ノ物件ハ別表ニ準シ徴收スヘシ

第二 前項ノ消毒料ハ事務掛首席ニ於テ徴收シ十日分

取纏メ當應ニ納付スヘシ  
第三 徴收簿集計簿納付書及領收證書ハ第一號乃至第四號様式ニ據ルヘシ  
(第一號)

被托消毒品消毒料徴收簿

一金		住所			
明治 年 月 日 領收		氏 名			
被托明治 年 月 日		返付明治 年 月 日			
品目	個數	消毒料 (消毒料)	品目	個數	消毒料 (消毒料)



第 號		何 誰	
一金何程		事務掛首席印	
何何外何品消毒料		事務掛首席印	
明治年月日		事務掛首席印	

右納付候也

年 月 日

消毒所

事務掛氏 名

市參事會

「知事」宛

(第四號)

品目	個數	消毒料 (消毒并 洗滌料)	品目	個數	消毒料 (消毒并 洗滌料)

內

第 號		證	
一金何程		同上	
何何外何品消毒料		事務掛首席印	
右領收候也		事務掛首席印	
明治年月日		事務掛首席印	

氏 名 殿

消毒所事務掛氏 名 印

(別紙)

消毒品價格表	
品 目	消 毒 料
夜 具	消毒並洗滌料
	〇四〇
	一八〇

頭巾	帽子	裝蒲團	袖ナシ	女帶	男帶	同半纏	單羽織	單衣	同半纏	袷羽織	袷	同半纏
〇〇五	〇〇五	小大 〇〇六 〇〇八 〇〇〇	〇一〇	〇一〇	角子帶 〇〇八 〇〇五	〇〇五	〇〇五	〇一〇	〇一〇	〇一〇	〇一五	〇一五
〇〇七	〇	一 二五 〇〇	〇四〇	〇一五	〇〇八 〇〇八	〇一五	〇一五	〇二〇	〇二〇	〇二〇	〇三〇	〇八〇

綿入羽織	綿入	敷布	半部毛布	全部毛布	ドテラ	括ッ枕	坐蒲團	小蒲團	二布同上	三布同上	四布同上	五布蒲團	抱卷
〇一五	〇二〇	〇一〇	〇一五	〇三〇	〇二五	〇〇五	〇〇五	〇一〇	〇二〇	〇二五	〇三〇	〇三五	〇三〇
〇八〇	一二〇	〇一七	〇三〇	〇五五	一二〇	〇〇七	〇二〇	〇四〇	〇五〇	〇七〇	〇八〇	一〇〇	一四〇



襟	卷	〇〇五	〇〇七
肩	掛	〇一五	〇二八
襖	衣	〇〇五	〇一二
腹	掛	〇〇五	〇一〇
股	引	〇〇五	〇一〇
腰	卷	〇〇五	〇一〇
足	袋	〇〇五	〇〇七
西洋手拭		〇〇五	〇〇七
五布風呂敷		〇一〇	〇二〇
四布同上		〇〇八	〇一六
三布同上		〇〇六	〇一二
敷物	半部毛布ノ大サ	〇二〇	一〇〇
チンチコ半纏		〇二〇	一〇〇
洋服	上著及ツボン	〇四〇	一〇〇

枕	覆	〇〇二	〇〇五
褥		〇〇五	〇〇七
並蚊帳		〇三〇	〇六〇
二重トシロ		〇四〇	一二〇
外	套	〇二〇	〇八〇

● 傳染病感染及死亡者手當金支給規則  
明治三十年八月十一日  
 市告示第三十九號

本市會ノ議決ヲ經傳染病感染及死亡者手當金支給規則  
 左ノ通定ム

傳染病感染及死亡者手當金支給規則

第一條 有給市吏員及雇員公務ニ依リ傳染病豫防救治  
 ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ此規則  
 ニ依リ手當金ヲ給與ス

第二條 手當金ヲ分チ救助療治料弔祭料ノ三種トス

第三條 救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

第四條 療治料ハ感染者治療看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス

第五條 弔祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月俸一ヶ月分又ハ日給三十日分ヲ給ス

但市ニ於テ埋葬スル者ハ之ヲ給セス

第六條 救助料ヲ分テ二等トス

一等 年俸十二分ノ五、月俸五ヶ月分又ハ日給百五十分

二等 年俸十二分ノ三、月俸三ヶ月分又ハ日給九十十分

但ベスト病ハ年俸二ヶ年月俸二十四ヶ月日給七百三十日(三十三年一月二十四日市告第五號ヲ以テ但書追加)

第七條 感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス

第八條 療治料ハ一日金壹圓ヲ給ス

但市ニ於テ治療スル者ハ之ヲ給セス

第九條 名譽職員市醫等公務ニ依リ傳染病ニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ其手當金ハ市參事會ニ於テ隨時之ヲ定メ支給ス(三十三年一月二十四日市告第五號ヲ以テ但書追加)

第十條 此規則ニ掲クル手當金ハ退隱料又ハ一時賜金ノ給與テ受クルモノニモ之ヲ支給ス

●ベスト病豫防ニ關シ特別手當支給方

明治三十三年六月八日  
市會議決第六十九號

本市吏員及備員ニシテベスト病豫防救治ニ從事シ専ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ各其俸給又ハ給料月額三分一以内ノ月手當ヲ給スルコト

ヲ得

●病院門衛小使等公務ノ爲メ傷疾休業中給料支給方  
明治三十三年二月二十三日市長指令  
 給方總乙第八百三十六號ノ二駒込病院へ

明治三十三年二月九日甲第十一號伺門衛小使火夫看護婦洗濯人汚物取扱公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ病氣ニ罹リタル其休業間給料支給ノ件伺ノ通

(參 照)

甲第十一號三十三年二月九日  
駒込病院 伺

本年一月十七日附會發第二十七號ヲ以テ日給雇ノ者公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ執務スルコト能ハサルトキハ其間給料支給スル旨通牒有之右ハ本院門番小使火夫看護婦洗濯人汚物取扱人等日給者ニシテ公務ニ依リ傷疾ヲ受ケ若クハ傳染病ニ感染シ爲ニ執務スル能ハサルトキハ其休業間給料ヲ支給ス

ルモノト心得可然哉

右疑義ヲ生シ候ニ付此段相伺候也

●傳染病患者檢診并檢診料支給方

明治三十年五月六日  
市訓令甲第九號

區 役 所

傳染病又ハ其疑アル患死者ノ診斷若クハ檢案ヲ要スルトキハ市醫ヲシテ之ヲ檢診セシメ市醫事故アルトキハ最寄開業醫ヲシテ檢診セシムヘシ

但開業醫ヲシテ檢診セシムルトキハ既定ノ檢診料支給方取計フヘシ

第三類 兵 事

● 徵兵事務區長ニ委任 明治三十二年四月二十七日  
市 告 示 第 三 十 七 號  
東京府知事ノ許可ヲ經テ左ノ事務ヲ區長ニ委任シテ掌  
理セシム

- 一 徵兵事務條例第二十三條中検査區徵兵署開設ノ日割  
ヲ聯隊區司令官ト協議スル事
- 一 同條例第二項中検査抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所  
ヲ豫メ徵兵參事員ニ通知スル事
- 一 同條例施行細則第四條中聯隊區徵兵署ニ充ツル家屋  
選定ノ事
- 一 同第四十九條ニ關スル事務

● 徵兵令違犯事件告發書式

明治三十三年五月四日勅令  
總乙第二千八百九十三號區長宛

從來徵兵令違犯事件ニ對シ告發書ハ記載方區區ニシテ  
中ニハ要領ヲ得サルモノモ有之爲ニ迅速處決難出來場  
合モ有之候條自今便宜ノ爲メ別紙書例ニ準據致度旨東  
京區裁判所檢事ヨリ通牒有之候條自今ハ右書式ニ倣ヒ  
告發書御調製相成度此段及示達候也

追而徵兵令第三十一條ノ違犯者ニ對スル告發書ハ東  
京地方裁判所檢事ニ宛テ書類ハ東京區裁判所檢事へ  
直接御送付相成度此段申添候也

(別 紙)

告發書

本籍地	.....
出生地	.....
居住地	.....
身分職業	.....

何ノ誰

生年月日

右ハ明治何年度徵兵適齡ニシテ明治何年何月何日何處

ニ開ク徵兵署ニ出頭シ身體検査ヲ受クヘキ處正當ノ事  
 テ之ニ應セサルモノニ付徵兵令第三十條ニ違犯シタル  
 モノト思料候條又ハ何年何月何日逃亡シ兵役ヲ免レン  
 シタルモノトモノニ付徵兵令第三十一條ニ違犯此段及告發  
 候也

明治 年 月 日

東京市何區長氏名印

東京區裁判所檢事

御 中

●現役兵證書補充兵證書再渡願書經由差出方

明治三十二年五月二十日勅使通牒  
 總發第五百七十二號區長宛

今回本郷麻布兩聯隊區司令官ト協議ノ末徵兵事務條例  
 施行細則第四十七條ノ現役兵證書補充兵證書ヲ失ヒ又  
 ハ損傷シタルモノノ更ニ下渡ヲ聯隊區司令官又ハ警備  
 隊司令官ニ請求スル願書ハ區役所及市役所ヲ經由ノ上  
 進達ノ事ニ決定相成候條自今右ニ依リ處置有之度此段

及通牒候也

●壯丁人員前年假決人員調報告期限

明治三十二年五月二十日  
 市調令甲第十五號

區 役 所

徵兵事務條例施行細則第三條ニ據ル壯丁人員及前年假  
 決ノ人員調ハ毎年一月二十五日迄ニ當處ニ報告セラル  
 ヘシ

●徵集延期願書并ニ狀況書提出方

明治三十二年六月二十六日  
 市調令甲第二十二號

區 役 所

徵兵事務條例第四十八條ニ據ル徵集延期願書差出シタ  
 ルトキハ其事實ヲ審察シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ當處  
 ニ提出スヘシ

第四類 恤救附養育院

●幼童縁組并雇預ケ及官給養育米料保管手續  
明治二十八年六月十三日  
市訓令第七十九號

養育院

其院ニ於テ保管セル幼童縁組并雇預ケ及官給養育米料保管手續左之通定ム

第一條 養育院保育ノ幼童貰受ノ許可ヲ得タル者ニハ之ヲ引渡シ其旨東京府又ハ東京市參事會ヘ届出ツルモノトス

第二條 養育院保育ノ幼童ヲ職工ノ徒弟トナシ又ハ店舗ノ走童トナサンコトヲ望ム者アルトキハ同院ハ雇預ケトシテ其望人ニ預クルコトヲ得

第三條 第一條ノ幼童貰受ヲ東京府又ハ東京市參事會

へ出願セシ者アルノ際養育院ハ其意見ヲ諮問セラレタルトキハ同院ニ於テハ探究シタル事狀及意見ヲ申報スルモノトス

第四條 第二條ノ雇預ケヲ望ム者アルトキハ其預リ人ノ性質素行職業家計ノ程度及雇預リトスルノ目的等ヲ審査シ後來幼童ノ利益トナルヘキモノト認ムル者ニ限リ之ヲ許可スルモノトス

第五條 雇預ケトナス幼童ニシテ其父母判明ナル者ハ一應其父母ノ承諾ヲ得ルモノトス

第六條 雇預ケトナシタル幼童年齢滿十三年ニ達スルマテハ委員長其監督ノ責ニ任スルモノトス

第七條 雇預ケトナシタル者爾後其預リ人ノ幼童ニ對スル處置宜シキヲ缺キ幼童ノ不利益ト認メタルトキハ之ヲ取戻スモノトス

第八條 第四條及第七條ノ雇預ケヲ許可シ又ハ取戻シタルトキハ其旨東京府又ハ東京市參事會へ届出ツルモノトス

第九條 雇預ケトナシタル幼童ニ支給セラレル官給養育米料ハ之ヲ養育院ニ於テ保管シ同院委員會ノ適當ト認メタル場所ニ預ケ本人年齢滿十三年ニ達シタルトキ之ヲ下付スルモノトス

第十條 第七條ノ取戻シタル幼童ノ預ケ中ニ係ル保管金ハ引續キ保管シ置キ本人年齢滿十三年ニ達シタルトキ下付スルモノトス

第十一條 第九條及第十條ノ保管金ヲ本人ニ下付セントスルトキハ本人定籍地ノ町村長若クハ區長ト協議シ徒ニ消費セシメサル様注意ヲ要ス

●養育院保育幼童一時預ケ等届出方

明治二十八年六月十二日書記官通達  
內五發 第三百六號 養育院

其院保育ノ幼童ヲ乳養ノ爲メ一時預ケヲ爲シタルトキ又ハ取戻シタルトキハ其旨速カニ東京府知事若クハ東京市參事會「知事」へ届出(預ケ人住所)可相成依命此段及通達候也

●養育院保管幼童雇預ケ願人業體撰定許可方

明治二十八年九月十二日書記官通達  
內五發 乙第八千三百三十三號 養育院

客月二十四日付甲第二五號ヲ以テ其院保管幼童雇預ケ願人營業種類撰擇ノ儀ニ關シ上申ノ件ハ幼童線組雇預ケ及官給養育米料保管手續第四條ニ照シ後來幼童ノ利益トナルヘキモノト認ムル者ニ限リ之ヲ許可セラルヘク市參事會知事ノ命ニ依リ此段及通達候也

(參 照)

甲第二五號 二十八年八月二十四日  
養育院 上 申

養育院收容ノ窮民棄兒異動報告方  
明治三十一年十一月二十六日助役通達  
 總務部第五十三號局長宛  
 其區在籍者ニシテ養育院へ收容ニ係ル恤救許可之窮民  
 及棄兒等ニ異動ヲ生シタルトキハ從テ恤救米及養育料  
 等ニ關係ヲ有スル義ニ有之且府知事へ報告ノ都合モ有  
 候也

之候條養育院ヨリ通知アリタルトキハ直ニ當所へ申報  
 相成候様致度此段及通達候也

●窮民棄兒異動并恤救養育院ヨリ區役所へ通知  
方明治三十一年十一月二十六日助役通達  
 總務部第五十三號養育院宛  
 其院收容ニ係ル恤救許可ノ窮民及棄兒等ニ異動ヲ生シ  
 タルトキハ從テ恤救米及養育米料等ニ關係ヲ有スル義  
 ニ有之候條其送致ニ係ル區役所へハ直ニ通知方御取計  
 相成度且本市在籍者ニシテ恤救規則ニ依リ救助可相成  
 モノト認メラレ候モノアルトキハ當該區長へ恤救之義  
 具中方取計可有之旨通知相成候様致度此段及通達候也

●恤救規則ニ依ル具申書正副差出方  
明治三十一年十一月四日  
 市訓令甲第一三號

區 役 所

其區ニ於テ恤救規則ニ依リ從來取扱來リ候具申書ハ本



年十月五日東京府訓令第二十九號ニ依リ正副差出スヘシ

●棄兒迷兒異動届書正副二通差出方

明治三十一年十月二十二日  
市訓令第十四號

區 役 所

其區ニ於テ從來取扱來リ候棄兒迷兒ノ轉居死亡其他異動ヲ生シタルトキハ本年十月五日東京府訓令第三十號ニ依リ市長ヲ經由スヘキニ付該書面ハ正副差出スヘシ右訓令ス

●受救人身元取調ノ上救助方

明治二十三年六月十四日  
市訓令第四號

區 役 所

窮民救助ノ際受救人ノ身元取調方精密ナラサルカ爲メ受救人ニ於テ依頼心ヲ生シ自活ノ念慮ヲ失ヒ救助者ノ

厚意ニ背ク者有之候テハ不都合ニ付自今救助ノ爲メ金數等ヲ差出シ救助方依頼ノ者有之候ハハ區役所ニ於テ受救人ノ身元取調ノ上救助方取計フヘシ

●棄兒親族會員及後見人選定方

明治三十二年七月二十五日  
市訓令乙第四號區長宛

本市養育院保育ノ棄兒ニシテ他ニ貰受ケラレタルトキ其養子縁組ヲ有効ナラシムルニハ親族會ヲ招集シテ後見人ヲ選定セサルヘカラス然ルニ其都度親族會員又ハ後見トナルヘキ者一定シ居ラサルニ於テハ其ヲ不都合ニ候條自今其區ヨリ申立又ハ檢事へ通知ノ場合ニ於テハ左ノ如ク一定スヘキ義ト心得ラルヘシ

親族會員トナルヘキ者三名

養育院幹事 壹名

養育院書記 貳名

後見人トナルヘキ者壹名

養育院委員長 壹名

後見監督人トナルヘキ者壹名

東京市長 壹名

● 棄兒後見職務執行ニ關シ貰受願許可方

明治三十三年七月十日市長指合  
總發第千十五號區長宛

從來棄兒ノ養子貰受願ニ對シテハ其區長ヨリ副申相成居候處本年法律第五十一號及勅令第四百四十四號ヲ以テ救育所ニ在ル孤兒ノ後見職務執行ニ關スル法令制定セラレタルニ付從來區長カ該棄兒貰受願ニ對スル手續ヲ廢シ養育院委員長カ勅令第四百四十四號第一條ニ依リ後見人ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テ本市參事會ハ養育院委員長ニ對シ許可スル事ニ改正候條此旨及通達候也

● 孤兒縁組ニ關シ許可執行方

明治三十三年七月十日市長指合  
總發第千二百九十三號ノ二養育院宛

明治三十三年六月二十九日付キ第二六九號何孤兒縁組ニ關スル手續ハ本市參事會ノ許可ヲ受ケ其院委員長ニ於テ執行スヘキ義ト心得ヘシ

(參 照)

キ第二六九號三十三年六月二十九日

從來本院ノ棄兒ヲ貰受ント欲スルモノハ該願書ヲ其棄兒ノ在籍地ナル役場ヲ經由シテ市長ヘ差出シ來リ候處本年勅令第四百四十四號第一條中ニ教育所ニ在ル孤兒ニ關シ後見人ノ職務ヲ行フモノカ其職務ヲ執行スルニ當リ親族會ノ同意ヲ要スル事項ハ公設ノ教育所ニ在テハ之ヲ設立セル公共團體ノ行政廳ノ許可ヲ受ルコトヲ要スト有之サレハ該願書ハ本院委員長ヲ經由シ委員長ハ願人ノ身元調査書并意見書ヲ添へ市

長へ差出シ其許可ヲ受ル義ト心得テ可然哉此段相伺候也

●窮民棄兒迷兒遺兒名簿様式

明治三十三年六月二十日  
市訓令甲第三十號

區 役 所

其區ニ於テ從來取扱來候窮民及棄兒遺兒迷兒ニ係ル名簿ハ別紙様式ニ據リ調製スヘシ

(別紙)

救養ヲ要スル事由	(老衰) (癡疾) (疾病) (幼弱)	何之誰
病倒地		年月日生
原籍地	何區何町何丁目何番地	
父母若クハ戶主氏名	戶主(何何)	
初救ノ年月日	何年何月何日	

院入年月日	何年何月何日
同上出院年月日	
原籍判明年月日	
他管ヨリ轉入年月日	
他管へ轉籍年月日	
教養停止事項及年月日	
死亡年月日	何年何月何日
事記	
拾上年月日	明治年月日拾上ケ
拾上場所	何處何所ニ於テ拾上ノ箇
他管ヨリ轉入事項及其年月日	何之誰 推測明治年月日生
滿年年月日	明治何年何月何日滿年トナル
教育ノ場所	養育院明治何年何月何日

貰受人住所氏名	
貰受許可年月日	
貰受人引取年月日	
失踪年月日	何年何月何日
失踪復歸年月日	
他管へ轉籍事項及年月日	
親元發覺ニ付引渡年月日	
死亡年月日	何年何月何日
記	何年何月何日定籍命名(又ハ死亡轉居)
事	

●病名不明ノ行旅病人送院心得方  
明治三十四年二月八日市長通告  
 總乙第三百四十七號ノ二區長宛  
 本市養育院へ收容スヘキ行旅病人中往往傳染病又ハ精神病者ノ疑ヒアルモノ有之取扱上支障甚ナカラサル趣

同院委員長ヨリ申出ノ次第モ有之ニ付行旅病人中病名ノ判明セサル者ハ醫師ノ診定ヲ經タル上送院方取計ハルヘク此段及通達候也

●行旅病者全快出院ノ際取扱方  
明治三十一年八月十二日書記官通告  
 五乙第四百八十一號ノ二養育院宛

行第四七八號ヲ以テ行旅病者病氣快方出院ノ際取扱方ニ付御上申ノ件ハ御意見ノ通直ニ出院セシメ可然尤モ關係町村區ニ於テ其者ニ要セシ費用取立方等ニ關シ出院ノ事ヲ前知致度場合有之哉モ難計ニ付可成各自ノ病體ニ注意シ出院兩三日前ニ於テ關係町村區へ其出院ヲ通知ト記スルカ如シム候様御取扱有之度別段指令不相成命ニ依リ此段及通達候也

(參照)

行第四七八號三十一年七月三十日

行旅病者病氣快方出院ノ際ハ管轄區役所町村役場へ  
 差支有無照會シ回答之上出院爲致來リ候處往復時日  
 フ費ス爲メニ逃亡スル者モ有之且ツ目下同病者日  
 増員シ右様之取扱ニテハ自然院内狹隘ヲ告不都合モ  
 有之候間以來ハ病氣全快之者ハ直ニ出院爲致候様致  
 度此段上申候也

●行旅病人人名簿雛形明治三十三年九月二十六日  
市訓令甲第五十一號

行旅病人人名簿別紙雛形之通リ調製シ各欄ニ其相當事  
 由ヲ詳記スヘシ

(別紙)

原籍地	病倒地	救護ヲ要スル理由	氏名
			年月日生

住所	住地	扶養義務者	院入年月日	同上出院年月日	原籍及住所引渡年月日	公共團體ニ引渡タル年月日	死亡年月日	救護ニ要シタル額並ニ其年月日	事記

●行旅病死者救護并ニ引渡通知方

明治三十三年九月二十六日  
市訓令甲第五十二號

區役所

明治三十二年六月内務省令第二十三號行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護并ニ取扱方第五條ニ依ル行旅病人行旅死亡人ノ扶養義務者若クハ家族ナキトキ又ハ分明ナラサル場合ニ於テ公共團體ニ引渡シタルトキハ其都度遺漏ナク其旨東京市養育院委員長ニ通知スヘシ

●救助費正當領收證收支計算書ニ添付送付方

明治二十六年三月三十一日  
市訓令第八十三號

區 役 所

市救助費ニ屬スル正當領收證書ハ二十六年度以降收支計算書ニ添付シ送付スヘシ

●救助費月額豫定下渡方明治二十九年七月八日市訓令甲第七號

區 役 所

救助費中乘兒費ノ雜費行旅死亡人費ノ無籍者費行旅病人者費ノ雜費ハ毎年度豫算額ヲ令達スヘキニ付市歳入歳

出納規則第二十條ニ依リ月額ヲ豫定シ之ヲ請求シテ所要ノ時時支出シ同規則第三十六條ニ依リ毎月支出報告書ヲ調製シ翌月七日マテニ送付スヘシ

但明治二十九年八月分ヨリ實施ス

●他區在籍者ニ係ル救助費支出取扱方

明治三十一年八月二十四日書記官通牒  
四乙第七千八百三十四號ノ四區長宛

區役所ニ於テ他區在籍者ニ係ル救助費支出取扱方自今左ノ各項ニ據リ御取扱可相成此段及通牒候也

一 甲區役所ニ於テ取扱タルモノ乙區役所ノ在籍者ナルトキハ其要領及費用金額ヲ其區役所ヘ通知シ乙區役所ニ於テハ戸主其他ヨリ成規ノ手續ニ依テ費用ヲ徴收シ甲區役所ヘ送付スヘシ

一 戸主無資力ニシテ辨償シ難ク又其他ニ辨出者ナク市ノ負擔トナルヘキトキハ乙區役所ハ其旨甲區役所ヘ

通報シ甲區役所ニ於テハ相當豫算内ヨリ其費用ヲ支出スヘシ

一無籍者トシ取扱ヒタル後本籍判明シタルトキモ前兩項ニ準シ取扱フヘシ

一所要ノ都度請求スル科目ニ係ルトキハ第二項第三項ノ手續ヲ了シ甲區役所ニ於テ其請求ヲナスヘシ

●罹災救助寄贈金品分配方心得

明治三十三年一月十日  
市內訓甲第二號區長宛

近來各地ニ火災頻ニ有之候處今ヤ冬天ニ向ヒ例年火災多キ時候ニ相臨ミ候ニ付豫防上十分注意相成度又近時罹災ニ際シ義捐ヲ爲スノ風行ハレ固ヨリ奇特ノ事ニ候ヘ共一時ニ多額ノ金員ヲ災民ニ分配スルトキハ罹災者ニ於テ思ハサル收得ヲ受ルノ餘リ奢侈ニ陥リ易ク義捐ノ旨趣ノ副ハサルノミカ此ノ如キハ災後却テ情民ヲ増

スノ虞アルノミナラス過分ノ救助ヲ僥倖シ偶マ放火ノ念ヲ生スル如キノ危險其他是ニ伴フ種種ノ弊害ヲ醸スヨトモ可有之ニ付罹災救助ノ爲メ多額ノ義捐アル場合ニ於テ應急ノ救助ヲ爲スハ勿論ナリト雖モ一般ノ配附方ハ當應ヘ具申ノ上處理セラレ候様致サルヘシ右ハ其筋ヨリ通牒ノ旨モ有之候ニ付此段及内訓候也

(參照)

寄贈金穀物品分配方心得書(二十二年十一月二十八日府知事)

コト市長宛照會(一)  
發千七百七號附屬

第一 凡ソ水火等ノ爲メ罹災者ヘ救助トシテ金穀物品ヲ寄贈スル者アルトキハ第二項ニ照シ之ヲ分與スヘシ

第二 寄贈ノ金員ハ總額幾許ニ至ルト雖モ之ヲ罹災者ニ分與スルハ左ノ制限額以内ヲ以テ取扱フヘシ

一家ニ付 金五圓以内  
 一人ニ付 金壹圓以内

穀類物品ハ其罹災ノ狀況ニ應シ適宜之ヲ分配スルヲ得ヘシト雖モ金圓ト併セ分與スルトキハ其實價ヲ現金ト見做シ右制限額ノ中ニ算入スヘシ

第三 罹災ノ狀況ニヨリ分配金第二項ノ制限ニ由リ難キ場合アルトキハ其事由ヲ詳記シ臨機分與ノ見込相立伺出ヘシ

第四 寄贈ノ金穀物品ヲ分與シタルトキハ各斤各人分配額及殘金アルトキハ其預ケ方増殖ノ方法トモ相定メ其時時之ヲ具狀スヘシ

第五 前項ノ殘金ハ之ヲ貯蓄シテ他日ノ罹災者ニ分與シ又ハ其區町村内一般ノ救助ニ充ツヘシ  
 但罹災者ニ分與ノ場合ニ於テハ仍ホ第二項ニ據

リ一般救助ノ方法ハ其時時伺出ヘシ

第六 金穀物品ヲ寄贈スル者アルトキハ第二項三項四項五項ノ旨趣ヲ示シ承諾スル者ハ之ヲ受領シ若シ別ニ分與方ノ指定スルトキハ之ヲ處分スルノ限リニ非ス

●養育院名稱及經濟明治二十二年十二月二十八日告示第四十一號  
 東京府養育院名稱及經濟ノ件ハ市會ノ決議ヲ經テ左ノ通之ヲ定ム

東京府養育院ハ明治二十三年一月一日ヨリ東京市養育院ト稱シ其經濟ハ市ノ通常經濟ト異ニス

●養育院處務規程明治三十二年二月四日市令甲第三號  
 東京市養育院處務規程左ノ通之ヲ定ム

東京市養育院處務規程



- 第一條 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ院務ヲ掌理シ書記以下ヲ監督ス
  - 第二條 幹事ハ左ニ掲クル者ノ進退ヲ專行シ市參事會ニ報告スヘシ  
    - 一 幼童世話掛看護人炊夫小使
  - 第三條 幹事事故アルトキハ上席書記其職務ヲ代理ス
  - 第四條 書記ハ庶務ニ從事ス
  - 第五條 醫員ハ醫務ニ從事シ調藥手ハ調藥ニ從事ス
- 養育院事務委任明治三十三年四月四日市告示第十五號  
 本市養育院事務委任ノ件市會ノ議決ヲ經テ左ノ通之ヲ定ム
- 東京市參事會員ニシテ養育院委員長タル者ニハ左ノ事務ヲ委任シ掌理セシムルモノトス
- 一 入院願ヲ許否スル事

- 一 院務ニ關シ警察署及町村長區長ニ照會往復スル事
- 私立共濟慈善會業務監督委任  
明治三十三年八月十日市訓令甲第三十八號
- 養育院委員長
- 今般私立共濟慈善會へ補助相成候ニ就テハ該會業務ノ監督事務ハ總テ之ヲ委任候條左ノ方針ニヨリ補助金交付方取計ヲヘシ
- 一 養育院委員長ハ共濟慈善會ノ事業ヲ監督シ必要アルトキハ其事業ノ方針ヲ指示スルコトヲ得
  - 一 共濟慈善會ニ於テハ一ケ年ヲ兩期ニ分チ前半季ハ九月末日後半期ハ翌年二月末日其會ノ決算及事務成績ヲ養育院へ報告シ同院ハ市長ニ報告スヘシ
  - 一 共濟慈善會ハ毎月末日左ノ事蹟ヲ養育院へ報告スヘシ

收容者ノ住所姓名年齢貸渡人ノ住所氏名職業  
 島地派遣者ノ住所姓名年齢貸渡人ノ住所氏名職業  
 一 養育院ハ感化部入院者ニ缺員アルトキハ共濟慈善會  
 收容者中ヨリ補充スルコトアルヘシ  
 一 養育院感化部ニ於テ入院者定員外ノ送付ヲ受ケタル  
 トキハ共濟慈善會ヲシテ收容セシムルコトアルヘシ  
 一本命令書ニ違背シタルトキハ其補助ヲ取消シ補助金  
 ハ月割ヲ以テ計算シ之ヲ還付セシムルコトアルヘシ  
 ● 養育院常設委員設置明治二十二年十二月二十八日  
 市告示第四十二號  
 東京市養育院ノ事務ヲ掌理スル爲メ常設委員ヲ置ク件  
 市會ノ決議ヲ經テ左ノ通之ヲ定ム  
 第一條 東京市養育院ノ事務ヲ掌理スル爲メ常設委員  
 ヲ置キ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ  
 市參事會員ヨリ  
 一名

市會議員ヨリ  
 二名  
 市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ  
 三名  
 第二條 市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ選舉セラント  
 ル委員ハ其任期ヲ四年トス  
 ● 養育院入院規則明治三十三年七月七日  
 市告示第七十四號  
 本市會ノ議決ヲ經明治二十三年四月市規則第一號東京  
 市養育院入院規則左ノ通り改正ス  
 東京市養育院入院規則  
 第一條 東京市養育院ハ孤兒及窮民ヲ教育スル所トス  
 第二條 孤兒ニアラサル者ノ入院ヲ許可スルニハ二年  
 以來本市ノ住民ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ  
 ニ限ル  
 一 獨身者ニシテ廢疾不具疾病心神耗弱及老衰ノ爲メ  
 生計ヲ爲スコト能ハサル者

二 獨身者ニアラスシテ疾病其他ノ事故ニ依リ一家生計ヲ爲スコト能ハサル者

三重傷ヲ受ケ即時頼ルヘキ所ナキ者

第三條 孤兒ニアラスシテ入院ヲ出願スル者ハ左ノ事項ヲ記載シ戸籍ノ謄本及所轄區長ノ證明書ヲ添へ本院委員長ニ願出ツヘシ

本人及出願者ノ氏名住所年齢族籍職業廢疾不具疾病又ハ重傷ニ罹リタル事由

前條第二號及第三號ニ該當スルモノハ其家族ノ狀況

第四條 孤兒ニアラサル者ノ入院ハ出願ノ順序ニ據ルシ 但本人ノ情況ニ依リ其順序ヲ變更スルコトアルヘシ

第五條 在院者ニシテ院則ヲ遵守セサル者又ハ救助ノ必要ナシト認ムル者ハ之ヲ退院セシムヘシ

第六條 在院者ノ親族中扶養ノ義務アル資力者ヲ發見シタルトキハ直チニ本人ヲ引取ラシムヘシ

第七條 行旅病者其他ノモノニシテ特ニ費用ノ辨償ヲ得ヘキモノハ其費用ヲ受ケ本院ニ收養スルコトアルヘシ

● 養育院感化部入院規則 明治三十三年七月七日 市告示第七十五號

本市會ノ議決ヲ經東京市養育院感化部入院規則左ノ通り之ヲ定ム

東京市養育院感化部入院規則

第一條 本部ニ入院セシムル者ハ本市内ニ居住シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一 滿八歳以上十六歳未滿ニシテ扶養義務者無キ惡化ノ虞アル者

二 滿八歳以上十六歳未滿ニシテ放逸又ハ不良ノ行爲

アリテ扶養義務者無資力ノ爲メ之ヲ矯正スルコト能ハサル者

第二條 入院ヲ許可スルハ左ノ手續ニ依ルモノトス  
前條第一號ノ場合ニ於テハ認知者又ハ警察署長若クハ區長ノ紹介アリタルトキ  
前條第二號ノ場合ニ於テハ扶養義務者ヨリ出願シタルトキ

第三條 入院ヲ出願スル者ハ左ノ事項ヲ記載シ戸籍ノ謄本及所轄區長ノ證明書ヲ添へ養育院委員長ニ願出ツヘシ  
本人及出願者ノ氏名、住所、年齢、族籍、職業  
本人ノ性行及家族ノ狀況

第四條 第一條第二號該當者ノ入院ハ出願ノ順序ニ據ル

但本人ノ情況ニ依リ特ニ其順序ヲ變更スルコトアルヘシ

第五條 入院者滿二十歳ニ達シタルトキ若クハ改善ノ事蹟明カナルトキハ之ヲ退院セシムヘシ

第六條 第一條第一號ノ入院者ノ親族中扶養ノ義務アル資力者ヲ發見シタルトキハ直ニ本人ヲ引取ラシムヘシ

第七條 府縣其他公共團體ニ於テ救助セラレル者又ハ入院費用ノ辨償ヲ得ヘキ者ハ其費用ヲ受ケ本部ニ收養スルコトアルヘシ

●養育院へ寄附者アルトキ取調報告事項

明治三十二年六月九日勅使通牒  
總發第二百五十五號養育院宛

養育院へ金員物品等寄附者有之トキハ左記ノ各項ヲ取調へ御報ノ場合各人別ニ詳記相成度此段豫メ通牒ニ及

候也

一 氏名住所屬籍身分

但家族ナレハ其戸主ニ對スル等親

二 官職兼任アル者位階勳等

三 非役ノ者ハ其職業

四 重罪ノ刑ニ處セラレサルヤ否

五 寄附金額又ハ物件及其評價

但定價アルモノト雖モ其實價ノ評定ヲ要ス

六 寄附年月日

● 慈善諸興行等ニ對シ寄附受領證明付與具申方

明治三十二年十月二十五日  
市訓令甲第三十九號

養 育 院

其院寄附ノ名義ヲ以テ願出タル慈善諸興行等ニ對シ寄附受領證明ヲ與フル場合ハ豫メ當廳ヘ具申スヘシ

● 養育院物品百圓以内隨時購入方

明治二十六年十一月七日  
市會議決第八十一號

養育院經費ノ内需用ノ物品ハ公ケノ入札ニ付セス金額百圓以内ハ同院ニ於テ隨時購入スルコトヲ得

● 養育院費中假渡方明治二十四年四月七日  
市會議決第十九號

養育院費中備品并消耗品及菜類雜品等購入ノ爲メ金參百圓以内ヲ豫備金トシテ同院ヘ假渡ヲナシ同院ニ於テハ右金ノ内ヲ以テ便宜之ヲ購入シ毎月二十五日限り其領收證書ヲ取纏メ當廳ヘ該金ノ請求ヲナシ豫備金ノ支拂額ヲ補充セシムルモノトス

但豫備金ハ据置トシ年度末ニ至リ一旦返納更ニ翌年度始メニ於テ下付スルモノトス

● 養育院入院者死體忠部解剖許可具申方

明治三十一年十一月十九日  
市訓令甲第五號

區 役 所

養育院入院者死體患部解剖ノ儀ハ同院委員長及醫員連署ヲ以テ願出ルトキハ許可ヲ與フルト同時ニ其旨當廳ヘ具申スヘシ

●養育院幹事及書記調樂手俸給額

明治三十三年四月二日  
市告示第三十四號

本市會ノ議決ヲ經東京市養育院幹事及書記調樂手俸給額ヲ左ノ通改定ス  
東京市養育院幹事月俸ハ市事務員四級以上書記及調樂手月俸ハ同六級以下ノ規定ヲ適用ス本改正ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第五類 土木

●土木部各課ニ掛設置並事務分掌

明治三十一年十月十五日  
市參事會決議

土 木 部

土 木 課

庶務掛

主管ノ事務左ノ如シ

- 一 輕便軌條一時布設ニ關スル願ノ件
- 一 水上建設物ニ關スル願ノ件
- 一 護岸ノ修築ニ關スル願ノ件
- 一 街路建設物及埋設物ニ關スル件
- 一 市内各營造物ノ狀況及各工事ノ視察並人民ヨリ出願ニ係ル事件ニ對シ實地踏査ニ關スル件
- 一 豫算決算及目論見調査ニ關スル件

- 一 土木費ノ收支及諸般ノ契約調査ニ關スル件
- 工務掛    主管ノ事務左ノ如シ
- 一 河港道路堤防溝渠壕壘橋梁等ノ設計及起工ニ關スル件
- 一 市有建物ニ關スル件
- 一 樹木ノ植付培養ニ關スル件
- 一 測量及製圖ニ關スル件
- 地    理    課
- 地籍掛    主管ノ事務左ノ如シ
- 一 市有河岸地及市有地ニ關スル件
- 一 墓地ニ關スル件
- 一 道路堤塘ニ關スル件
- 一 廢道敷及廢堤敷拂下ニ關スル件
- 一 私有道路ノ開廢變更ニ關スル件

- 一 前各項ノ外地籍ニ關スル件
- 公園掛    主管ノ事務左ノ如シ
- 一 公園地ニ關スル一切ノ件
- 「市區改正課」(三十二年八月二日市訓令甲第三十五號ヲ以テ市區改正事務所設置ニ付自  
    然廢課)
- 附
- 一 土木部ニ文書取扱主任ヲ置キ土木地理「市區改正」ノ三課ニ屬スル物品ヲ授受ヲ取扱ハシム
- 一 土木部ニ物品主任ヲ置キ土木地理「市區改正」ノ三課ニ屬スル物品ヲ管理セシム
- 土木部出張所設置並取扱事項
- 明治三十三年二月十日  
    市告示第 八 號
- 本市土木部出張所ヲ設置シ左ノ事項ヲ取扱ハシム
- 一 道路溝渠橋梁治水及水道用具ノ小破修繕ニシテ急施

ヲ要スル事項

出張所所在及管區左ノ如シ

在

管 區

麴町區鍛冶橋内	東京市土木部鍛冶橋出張所	第一區	日本橋區
芝區芝赤羽橋際	赤羽橋出張所	第二區	芝區
麴町區市ヶ谷門内	市ヶ谷出張所	第三區	麴町區
小石川區水道橋外	水道橋出張所	第四區	小石川區
淺草區三味線堀	三味線堀出張所	第五區	淺草區
深川安宅町	安宅町出張所	第六區	深川區
右ノ内赤羽水道橋安宅町三	出張所ハ本月十日ヨリ開始ス		

參照

土木部 鍛冶橋出張所	明治三十三年八月二十六日開始	(三十三示第八十八號)
土木部 市ヶ谷出張所	明治三十三年六月十八日開始	(三十三示第六十八號)

同 三味線堀出張所

明治三十三年五月二日開始 (三十三示第四十四號)

土木部 出張所處務規程 明治三十三年二月九日 土木部 訓令甲第五號

土木部 出張所處務規程左ノ通定ム

土木部 水道部

土木部 出張所處務規程

第一條 出張所ハ其管區内ノ工事ニ關スル事務ヲ取扱フモノトス

第二條 出張所職員左ノ如シ

- 一 技 師
- 一 事務員
- 一 技 手、技手補
- 一 雇 員

第三條 出張所ニ擔任者一名ヲ置キ技師技手ヲ以テ之



ニ充ツ

擔任者ハ上司ノ命ヲ承ケ左ノ事務ヲ取扱フモノトス

一所務ヲ整理シ所員ヲ指揮ス

一工事ヲ監視ス

一所員ノ勤儉ヲ調査ス

一出張所内取締一切ニ關スルコト(三十二年八月三十一日市訓令甲第四十五號)

ヲ以テ本項  
次項追加

一電話及電信電燈柱電話地下線用鐵管理設弁マンホ

一ル建設瓦斯管理設跡檢査ニ關スル事項

第四條 出張所ニ左ノ掛ヲ置ク

一土木掛

一水道掛

第五條 各掛事務分掌左ノ如シ

土木掛

一道路溝渠ニ關スル事項

一橋渠治水ノ小破修繕ニ關スル事項

水道掛

一水道用具ノ看守及維持修繕増設ニ關スル事項

一私用消火栓設置ニ關スル事項

一消火栓使用ニ關スル事項

一量水器點檢ニ關スル事項

一給水用具ノ檢査取締ニ關スル事項

一給水引用者ノ戸口調査ニ關スル事項

一水管内掃除ニ關スル事項

一水栓番取締ニ關スル事項

一職工工夫ノ取締ニ關スル事項

第六條 土木掛ハ巡視員ヨリ道路溝渠ニ係ル損所ノ通

知ヲ受ケタルトキハ其小破ニ係ルモノハ二日以内ニ

著手スヘシ(三十二年八月三十日市訓令第四十五號ヲ以テ本條追加以下類次編下ケ)

第七條 擔任者ハ其事務ノ繁閑ニ依リ技師長ノ承認ヲ

經テ各掛ノ職員ヲ交互ニ兼掌セシムルコトヲ得

第八條 鐵管消火栓等ノ増設ハ主務部ノ通牒修繕ハ概

算書ニ對スル執行命令ニ依リ之ヲ施行シ急施ヲ要ス

ルモノハ處分濟主務部ヘ報告スヘシ

第九條 量水器ノ點檢ハ每月初三日以內ニ之ヲ施行シ

主務部ヘ報告スヘシ

第十條 給水用具ノ破損ヲ認知シタルトキハ修繕ノ手

續ヲ示シ急施ヲ要スルモノハ措置ヲ加ヘ其主務部ヘ

報告スヘシ

第十一條 急施ヲ要スル口頭申請ハ便宜受理スルモノ

トス

第十二條 調成シタル書類ハ毎日完結シタル書類ハ月

末ニ取纏メ主務部ニ送付スヘシ

第十三條 出張所ニ宿直ヲ置ク

第十四條 前各條ノ外別ニ規程アルモノハ之ヲ適用ス

第十五條 此規程ニ關スル細則ハ主務部ニ於テ設定ス

ルコトヲ得

●道路掛處務規程明治三十年八月十八日市參事會議決

道路掛處務規程

第一條 市内修繕ノ周到ヲ圖ルカ爲メ工手助手及ヒ雇

員ヲ十五區ニ配置シ其區受持主任工手ヲシテ工事ニ

關シ一切ノ責ニ任セシム

第二條 各區受持主任工手ハ常ニ其區内ヲ巡察シ道路

溝渠ノ狀況ヲ審ニシ機ニ應シテ工事ノ設計ヲ施シ且

ツ購求シタル物料ノ領收及ヒ工事ニ關シ一切ノ指揮

ヲ爲スヘシ

第三條 助手ハ工手ノ職務ヲ助ケ雇員之ニ亞ク

第四條 各區受持主任工手ハ毎月少ナクトモ二回本部ニ集合シ協議會ヲ開クヘシ

第五條 各區受持主任工手ハ行幸啓ノ通知ヲ受ケルトキハ直ニ其御道筋ヲ巡視シ周到ノ注意ヲナシ以テ道路ノ完全ヲ期スヘシ

第六條 修路ノ要ハ施爲神速ニシテ機ヲ失フナキニアリト雖モ左ノ各項ハ必ス之ヲ確守スヘシ

第一 所定ノ計畫ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シテ認可ヲ請フヘシ

第二 認可ヲ經スシテ物料ノ調達人夫ノ備入レヲ爲スコトヲ得ス

但事火急ニシテ片時モ猶豫スヘカラサル場合ニ方リテハ先ツ最緊要ノ點ニ就テ救急ノ手段ヲ施

シ命ヲ待テ其餘ニ及フヘシ

第七條 定備工夫ハ小破修繕及應急工事ニ付之ヲ使用シ又降雨毎ニ溝渠ノ汚水横溢シ道路ヲ損スヘキ恐レアルトキハ其個所ニ就キ溝渠ノ塵芥ヲ取除ク爲メニモ亦之ヲ使用スヘシ

第八條 各區受持主任工手ハ小破修繕及ヒ應急工事ニ使用スヘキ物料ハ常ニ修用ニ缺乏ヲ生セサル様注意シ其數量ヲ豫定シ部長ニ差出スヘシ

第九條 物料ノ検査ハ各區受持主任工手ヲシテ擔當セシム

但時宜ニ依リ巡視員ノ立會ヲ爲サシムヘシ

第十條 各區受持主任工手ハ工夫ノ賃金ヲ毎月一日ヨリ十五日迄ノ分ハ其翌十六日ニ十六日ヨリ末日迄ノ分ハ翌月一日ニ計算シ庶務課ヘ差出スヘシ

第十一條 各區受持主任工手ハ毎日其區ニ於テ修繕ヲ加ヘシ個所坪數及ヒ之ニ使用シタル工夫ノ數及ヒ物料ノ消費高ハ日計表ヲ作り其受拂ヲ明白ニ爲スヘシ

第十二條 工事ニ關シテハ東京市工事入札請負規則定請負規則ニ準據スヘシ

●土木部巡視處務規程 明治三十三年八月三十日  
市訓令甲第四十四號

土木部

巡視處務規程別紙之通り改正ス

(別紙)

巡視處務規程

第一條 巡視員ハ第二條以下ニ於テ定ムル所ノ職務ニ從事スルモノトス

第二條 常ニ受持區内ヲ巡視シ道路橋梁溝渠治水ノ狀況ヲ視察シ損所アリト認メタルトキハ其現況ヲ課長

及出張所擔任者へ通報スヘシ

但小破修繕ニ止ルヘキモノニシテ其出張所之レカ通報ヲ受ケタル日ヨリ二日以内ニ着手セサルトキハ擔任者ニ就キ其事由ヲ聞キ課長ヲ經テ部長ニ報告スヘシ

第三條 各工事場ヲ巡視シ工事進行ノ程度及請負人ニ於テ仕様書ノ如ク履行セシヤ否ヤヲ查察シ苟モ不審ノ點アルトキハ現場出張員若クハ擔任者ニ就キ答辨ヲ求メ事宜ニ依リ其顛末ヲ課長ヲ經テ部長ニ報告スヘシ

但直營工事ニ對シテモ亦前項ノ例ニ據ルヘシ

第四條 工所用ノ砂利土材木類購入ノ際ハ必ス立會檢査ヲ爲スヘシ

但其他ノ材料檢査ニハ便宜立會ヲ爲スコトヲ得

第五條 諸官衙ノ照會ニ係ルモノ又ハ人民ヨリ願何ニ對シ實地検査ヲ要スルモノハ踏査ノ上意見ヲ付シテ所屬主任ニ回報スヘシ

第六條 道路取締規則ニ關スル諸般ノ狀況ニ注意シ異狀アルトキハ課長ヲ經テ部長ニ報告スヘシ

第七條 常備工夫ノ勤怠ヲ查察シ苟モ不良怠慢アリト認ムルトキハ擔任者ニ通告シ擔任者ニ於テ相當處分ヲ怠ルト認ムルトキハ課長ニ申報スルコトヲ得

第八條 巡視受持區ヲ分チ左ノ五部トス

- |       |      |      |     |
|-------|------|------|-----|
| 第一受持區 | 日本橋區 | 京橋區  | 深川區 |
| 第二受持區 | 芝區   | 麻布區  | 赤坂區 |
| 第三受持區 | 麴町區  | 四谷區  | 牛込區 |
| 第四受持區 | 神田區  | 小石川區 | 本郷區 |
| 第五受持區 | 下谷區  | 淺草區  | 本所區 |

第九條 毎朝本部ニ出頭シ前日視察シタル狀況ノ概要ヲ認メ課長ヲ經テ部長ニ提出スヘシ

●土木工事定備工夫設置並材料購入方

明治三十年七月二十六日  
市合議決第五十三號

本市土木事業中道路修繕工事ニ於テ小破修繕及應急工事等ヲ直接施行スルカ爲メ特ニ定備工夫ヲ設置シ及隨意契約ヲ以テ之ニ要スル材料ヲ購入スルコトヲ得

●定備工夫請書式及定備工夫保證人撰定心得

明治三十年八月十三日市合議決  
第五十二號

定備工夫請書書式及定備工夫ニ係ル保證人撰定心得ヲ一定ニ可致必要有之仍而別紙之通定ムルモノトス  
(別紙)

御請書

住所身分

賃金一日何拾錢ノ約定

私儀今般道路修繕定備工夫トシテ御備入ニ相成御示ノ規則等ヲ承認シ御請仕候就テハ御指揮ニ從ヒ工事ニ從事可致ハ勿論賠償可致義和生シタルトキハ速ニ差出可申候又保證人ハ本人ノ身上及賠償ニ關シテハ一切引受可申候仍テ連署ヲ以テ御請申上候也

氏 名

年 齡

右 本 人

年 月 日

氏

名 印

保 證 人 住 所 身 分

氏

名 印

東 京 市 土 木 部

御 中

定備工夫ニ係ル保證人撰定心得

定備工夫ニ係ル保證人ハ東京市内ニ住居スルモノニシテ土地又ハ家屋ヲ有スルモノトス

但確實ナルモノト見認ムルトキハ此限リニアラス

● 道路定備工夫ニ關スル規程

明治三十年八月十八日市參事會議決  
第壹萬貳千五百十六號

道路定備工夫ニ關スル規程

第一條 土木部ニ於テ市内道路ノ小破修繕及應急工事

ニ使用スル爲メ定備工夫ヲ常置スルモノトス

但定備工夫ハ雨降毎ニ溝渠ノ塵芥ヲ取除ク爲メニ

モ亦之ヲ使用ス

第二條 本工事ニ於テ使用スヘキ工夫ハ身體強壯ナル

者ニシテ年齢ハ二十歳以上四十五歳以下トシ充分其

勞働ニ耐ヘ得ヘキモノヲ雇入ルルモノトス

但充分其労働ニ耐ヘ得ルカ或ハ特種ノ技能アルモノヲ要スル場合ニ於テハ其年齢ヲ斟酌スルコトヲ得

第三條 工夫ハ確實ナル保證人連署ノ請書ヲ徴シ雇入ルルモノトス

第四條 保證人ハ本人身上ニ關シ一切ノ事件ヲ保證スル義務アルモノトス

第五條 工夫ハ其區道路掛主任ノ指揮監督ヲ受ケ其業務ニ従事スルモノトス

第六條 工夫ノ數ハ七拾四人ヲ定員トシ左ノ各區ニ配置スルモノトス

但工事ノ緩急ニ應シ其數ヲ増減スルコトアルヘシ

一 麴町神田日本橋京橋芝下谷淺草ノ七區ハ各區平均六人ツツトス

一 麻布赤坂四谷牛込小石川本郷本所深川ノ八區ハ各區平均四人ツツトス

第七條 各區ニ付工夫頭壹人ヲ置キ道路掛ノ指揮ヲ傳達シ又ハ其區工夫ノ取締ヲ爲サシムルモノトス

但工夫頭ト雖モ他ノ工夫ト共ニ労働ニ服セシム

第八條 工夫ノ労働時間ハ毎日九時間トス

但休憩時間ハ算入セス

第九條 工夫ノ事業始終時間及休憩時間ハ日ノ長短ニヨリ其時時揭示ス

但休憩時間ハ毎日三回以内ト定ム

第十條 工夫ノ賃金ハ左ノ範圍内ニ於テ定ム

一 工夫壹人ニ付一日ノ賃金四拾錢乃至五拾錢

第十一條 賃金ノ計算ハ毎月之ヲ二期ニ分チ前期ハ其月一日ヨリ十五日迄トシ後期ハ十六日ヨリ末日迄ト

シ計算スルモノトス

但前期ニ於テハ其月二十日後期ハ翌月五日拂渡ス  
ヘシ若シ支拂日休日ニ當ルトキハ其翌日トス

第十二條 工夫ノ労働時間ハ第八條ノ如ク定ムルト雖  
モ工事ノ緩急ニヨリ其時間ヲ延長スルコトアルヘシ  
但此場合ニ於テハ一日ノ賃金ヲ労働時間ニ割當其  
使役セシ時間ニ應シテ支拂フヘシ

第十三條 左ノ場合ニ該當スルモノノ賃金ハ前條ト同  
シク其賃金ヲ第八條ノ労働時間ニ割當其就業ノ時間  
ニ應シテ計算スルモノトス

一 第二十二條ニ該當スルトキ  
一 疾病其他本人ノ都合ニヨリ終業時間前ニ退場シタ  
ルトキ

第十四條 工夫ニシテ無斷欲勤二日ニ及フトキハ便宜

ノ方法ヲ以テ出勤ヲ督促シ猶ホ應セサルトキハ解雇  
スヘシ

第十五條 工夫頭ニシテ其任務ヲ盡ササルモノト認ム  
ルトキハ之ヲ罷免スヘシ

第十六條 工夫ニシテ疾病事故ニ因リ十五日間以上欲  
勤スルトキハ解雇スルコトヲ得

第十七條 工夫へ本市徽章入絆纏夏二枚冬一枚及ヒ雨  
具一組ヲ貸渡スモノトス

但本文ノ物品不用ニ屬スルトキハ之ヲ下付スルコ  
トアルヘシ

第十八條 工夫ニシテ絆纏雨具等ヲ紛失シ又ハ故意ニ  
破損シタルトキハ相當ノ代價ヲ賠償セシメ更ニ貸與  
スヘシ

但本人ニシテ賠償スルコト能ハサルトキハ保證人



ヲシテ賠償セシムルコトアルヘシ

第十九條 工事所要ノ諸器具ハ當分ノ内本部ニ於テ之ヲ賃借シ貸與スルモノトス

但鉄鶴嘴等ハ此限リニアラス

第二十條 工夫ニ貸與シタル諸器具等ハ毎日工事ノ始終ニ於テ道路掛之ヲ點檢スヘシ

第二十一條 工夫ニ貸與シタル諸器具ニシテ或ハ紛失

シ若クハ故意ニ大破損ヲ生セシメタルトキハ現品ヲ三日以内ニ返還セシメ若シ之ニ應セサルトキハ未拂

賃金ノ内ヨリ相當ノ價額ヲ賠償セシメ猶不足ヲ生スルトキハ保證人ヨリ追徴スルモノトス

第二十二條 工夫ニシテ勞働ニ耐ヘサルモノ若クハ怠惰ナルモノ又ハ事業中他ノ工夫ノ働作或ハ工事ノ妨害ヲ爲スモノ若クハ爲スト認ムルモノ或ハ掛員ノ指

揮ニ背戻シタルモノハ直ニ現場ヲ退シカムヘシ

●定備工夫使役手續明治三十四年五月一日  
市參事會議決第千三百七號

土木部ニ於テ使役スル定備工夫使役手續別紙ノ通設定ス

土木部定備工夫使役手續

一工夫ハ貳百貳拾貳人ヲ定員トシ土木課ニ於テ之ヲ命

二工夫ハ市内ノ道路下水ノ小破修繕及應急工事又ハ降雨ノ際泥土搔取ニ使役スルモノトス

但便宜ケ所限修繕工事下水ノ塵芥取除等ニ使役スルコトヲ得

三各區ニ於テ定員中ヨリ工夫頭壹人ヲ置キ主任ノ命令傳達及工夫ノ取締等ニ便ナラシム

四工夫頭ハ擔任者ニ於テ其區ノ工夫中ヨリ撰拔シ受持

ノ巡視ニ協議シ課長ヲ經テ部長ノ承認ヲ受クヘシ  
 五工夫頭ハ工夫ト等シク勞働ニ從事セシム  
 六工夫ハ工事ノ都合ニヨリ甲乙出張所間互ニ流用使役  
 スルコトヲ得ルト雖モ此場合ニ於テハ課長ヲ經テ部  
 長ノ承認ヲ受クヘシ  
 但一出張所所内ニ於ケル各區ノ流用ハ此限ニアラ  
 ス

七工夫ノ配置ハ左ノ如シ

- 鍛冶橋出張所
  - 京橋區 二十四人
  - 日本橋區 二十人
- 赤坂區 九人
- 赤羽橋出張所
  - 麻布區 十一人
  - 芝區 十六人
  - 小石川區 十人

等級	日給	人員
一等	金六拾五錢	
二等	金六拾錢	

  

出張所	人員
水道橋出張所	神田區 二十四人 本郷區 十一人
三味線堀出張所	下谷區 十六人 浅草區 十八人
市ヶ谷出張所	牛込區 十人 麴町區 十三人 四谷區 十二人
安宅町出張所	本所區 十六人 深川區 十二人

八工夫ノ賃金ハ左ノ等級表ニ依リテ支給ス

等級表

三	等	金五拾五錢
四	等	金五拾錢
五	等	金四拾六錢
六	等	金四拾參錢
七	等	金四拾錢

九工夫ノ昇級ハ擔任者其受持巡視ト協議シ課長ヲ經テ部長ニ申立ツルモノトス

●定備工夫非常服役ニ關スル規程

明治三十四年三月五日  
市訓令甲第四十二號

土木部

定備工夫非常服役ニ關スル規程左之通定ム

定備工夫非常服役ニ關スル規程

第一條 各出張所ニ屬スル定備工夫ヲ三分シ其一ニ相當スル工夫ヲ非常番工夫ト定メ毎月一日ヨリ十五日

迄十六日ヨリ末日迄トシ交互之ニ充ツルモノトス

第二條 非常番工夫ハ天災地變又ハ近火ノ際ニ於テ其所屬出張所へ直ニ參集セシムルモノトス

第三條 各出張所ハ非常番工夫ノ住所姓名ヲ記載シタル名簿ヲ備フルモノトス

第四條 非常番工夫ニシテ非常參集ヲ爲シタル者へハ其受クル所ノ一日ノ賃金ノ外左ノ割合ニ據リ給與スルモノトス

一午後五時ヨリ翌日午前七時ニ至ル間ニ於テ參集シ非常勞働ニ服セシメタル時ハ一日分ノ賃金參集シタルノミナル時ハ三分ノ一以内ヲ給與スルモノトス

一午前七時ヨリ午後五時ニ至ル間ニ於テ參集シ非常勞働ニ服セシメタル時ハ一日分ノ三分ノ二參集シ

タルノミナル時ハ五分ノ一以内ヲ給與スルモノトス

第五條 非常番工夫以外ノ工夫ニシテ參集シタルトキハ前條ノ例ニ準シ特ニ支給スルコトアルヘシ

第六條 非常番ニ充ツル工夫ハ豫メ左ノ事項ヲ諭示シ置クモノトス

一非常番工夫ハ自己ノ當番中病事故アル時ハ其所屬工夫中非常番外ノモノヘ依頼シ置クコト

一近火ハ其出張所所在ヨリ三町以内ニ在ル時但風力劇シキトキハ三町以外ト雖モ參集スルモノトス

一參集ノ際ハ本市ヨリ交付シタル絆纏ヲ著シ且非常線内立入ノ鑑札ヲ携帯スルコト

●工夫服役心得明治三十年八月十八日市參事會議決  
第五百十六號

工夫服役心得

一工夫出勤簿ハ各區工夫詰所ヘ備置クモノトス  
一工夫ハ始業時間十分前ニ詰所ニ至リ出勤簿ニ捺印スヘシ

一工夫ハ毎日始業時間及ヒ午餐時間後就業セントスルトキハ掛員ノ面前ニ整列シ點檢ヲ受クヘシ

一工夫ハ掛員ノ命ニ從ヒ指定ノ場所ニ赴クヘシ  
一工夫ニシテ左ノ一ニ該當スルモノアルトキハ退場セシムルコトアルヘシ

一勞働ニ耐ヘサル者

二怠惰ナル者

三他ノ工夫ノ働作ヲ妨害スル者

四喧嘩口論ヲナシ掛員ノ制止ヲ肯セサル者

五總テ掛員ノ指揮ニ從ハサル者

一 休憩時間左ノ如シ  
 一 毎日午前午後ニ於テ各一回  
 但十五分間  
 一 午餐休憩時間ハ夏期ニ於テハ一時間冬期ニ於テハ三十分間  
 一 工夫ハ貸與セラレタル諸器具ハ充分注意保存スヘシ  
 一 労働時間中退場セントスルトキハ掛員ノ許可ヲ受クヘシ  
 一 工夫缺勤スルトキハ其區掛員ヘ届出ツヘシ  
 ● 土木部工夫服役時間明治三十一年十月三十一日市長決列士發第二百五十二號  
 工夫冬期服役時間左ノ通定ム  
 三月三十一日  
 始業 午前七時三十分  
 終業 午後五時

午餐休憩 正午三十分  
 ● 自費下水浚深願等許可方區長ニ委任  
明治三十三年十一月十六日市告示第七十九號  
 明治二十二年七月市告示第十號區長委任事項ヲ左之通改正ス  
 但明治三十三年一月一日ヨリ實施ス  
 一 自費ヲ以テ市費ニ屬スル地先下水横切下水ヲ浚深シ及ヒ蓋ヲ設ケ橋ヲ架セントスル願ヲ許可スル事  
 ● 多摩川砂利採掘事務内則  
明治三十四年四月十五日市訓令甲第二十五號  
 土木部  
 多摩川砂利採掘事務内則左之通相定ム  
 多摩川砂利採掘事務内則  
 第一條 本市直營ノ多摩川砂利採掘ニ關スル事務ハ此

内則ニ依ル

第二條 砂利採掘事業ニ關スル費用ハ凡テ土木費中道路修繕費ヨリ支出ス

第三條 砂利取扱ノ爲事務所ヲ左ノニヶ所ニ置ク

一 東京府荏原郡六郷村大字古川

一 東京市月島

第四條 左ノ地ヲ以テ砂利船定繫場トス

一 東京府荏原郡六郷村大字古川

多摩川右岸

一 東京府荏原郡六郷村大字古川

多摩川左岸

第五條 事務所ニハ左ノ役員ヲ置キ砂利採掘ニ關スル諸般ノ事務ヲ取扱ハシム

但事務ノ繁閑ニ依リ増減スルコトアルヘシ但管理

人及副管理人ハ採掘及運送ニ經驗ヲ有シ且身元確實ナルモノニ囑托スルモノトス

一 古川事務所

事務擔當

一名

採掘及管理人

一名

同副管理人

二名

一月島事務所

事務擔當

一名

副擔當

一名

第六條 擔當ハ事務所全体ノ取締ヲ爲シ管理人ハ主トシテ砂利採掘及運送ニ關スル取締ニ任シ擔當不在ノ節ハ其代理ヲ爲スモノトス  
副管理人ハ擔當及管理人ノ指揮ニ隨ヒ各其職務ヲ分擔スルモノトス

第七條 管理人ハ擔當ト協議シ左ノ範圍内ニ於テ船員ヲ雇入又ハ解雇スルコトヲ得

一元船一艘ニ付

船頭壹人  
舟子貳人以上

第八條 元船ノ砂利積載量ハ一艘ニ付壹坪五合以上貳坪以内トス

元船ノ航海度數ハ一ヶ月平均八回トス

第九條 元船船員ノ賃金ハ運送并ニ東京市内月島揚共砂利壹坪ニ付金貳圓四拾五錢ノ割合ヲ以テ計算シ之ヲ支給スルモノトス

運送回數平均九回以上ナルトキハ其以上ノ回數一回コトニ一艘ニ付金壹圓以内ノ賞金ヲ與フルコトヲ得月島ニ於テ検査後更ニ各河岸揚ヲ命シタルトキハ砂利一坪ニ付運送賃貳拾錢以内ヲ増スモノトス

第十條 解船拾艘ニ付小頭副小頭各壹人ヲ置キ採掘運

送ニ關スル諸般ノ取締ヲ爲サシム

但小頭副小頭ハ人夫中ヨリ撰拔シテ兼シムルモノトス

小頭ハ人夫賃ノ外ニ月手當金拾圓副小頭ハ金七圓以内ヲ支給スルコトヲ得

第十一條 元船船員ハ第壹號書式ニ依リ壹艘コトニ運署ノ請書ヲ徵スルモノトス

第十二條 小頭人夫ハ第二號書式ノ受書ヲ徵スヘシ

第十三條 砂利採掘其他ノ人夫ハ壹人ノ賃金ヲ四拾錢トス其勞働ノ勉否ニ依リ歩合ヲ増減シテ支給スルコトヲ得

但壹坪ノ採掘運送賃共貳圓四拾錢ヲ目途トシ人夫ノ勞働勉否ニ關スル標準ヲ擔當管理人ニ於テ之ヲ定メ經伺ノ上施行スヘシ

第十四條 人夫勞働時間ハ日ノ長短ニ應シ擔當管理人

ニ於テ之ヲ定メ經伺ノ上施行スヘシ

第十五條 事務所ニハ人夫出面帳ヲ製シ置キ毎日人夫

ノ出面及勞働ノ歩合ヲ記載シ之ヲ人夫ニ示スヘシ

第十六條 船員及人夫賃諸雜費ハ毎月二回支拂フモノ

トス

第十七條 擔當人ハ毎月上半月分ハ其月ノ十七日迄ニ

下半月分ハ翌月二日迄ニ船員ノ分ハ第三號書式ニ人

夫賃ハ請求書ヲ各自ヨリ出サシメ船員ノ賃金ハ砂利

運送日計簿及ヒ受取狀ニ照シ人夫賃ハ出面帳ニ照合

シ第五號書式ノ證明書ヲ作り請求人ニ交附ス可シ

前項人夫賃ノ請求ハ人夫ノ都合ニヨリ一人ノ人夫總

代ヲ設ケ之ニ委任スルモ妨ケナシ若人夫總代ニ委任

シタルトキハ第六號書式ニ依リ請求書ヲ出サシムヘ

シ

但擔當ハ五號書式ニ依リ證明スルモノトス

月島事務所ニ於テハ擔當ニ於テ證明書ヲ交付スルモ  
ノトス

第十八條 採掘砂利運送ノ節ハ古川事務所ニ於テハ月

島事務所ニ宛テ送狀ヲ添付シ月島事務所ニ於テハ受

取狀ヲ其船員ニ交付スヘシ送狀及受取狀ハ第七號書

式ニ依ル

前項送狀ハ月島事務所ニ受取狀ハ古川事務所ニ於テ

保存シ一ケ年度毎ニ取纏メ市役所土木部ニ送付スル

モノトス

第十九條 擔當人又ハ管理人及副管理人ノ月手當ハ市

吏員俸給ト同日ニ支給シ小頭副小頭ノ月手當ハ翌月

二日日給ノモノハ人夫賃支拂ノ例ニ依ル



第二十條 事務所ニハ小使一人ヲ置クコトヲ得其貸金  
 ハ一日參拾錢以内トシ人夫賃ヨリ支拂フモノトス  
 事務所宿直ハ常時ニ在リテハ小使ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二十一條 一廉貳圓ヲ超エサルモノハ擔當限リ買入  
 ルルコトヲ得  
 第二十二條 事務所消耗費ハ左ノ如シ  
 一古川事務所 一ヶ月定額金七圓  
 一月島事務所 一ヶ月定額金五圓  
 第二十三條 事務所ニハ左ノ帳簿ヲ備ヒ擔當及管理人  
 保存管理ノ責ニ任スルモノトス  
 一船員名簿  
 二砂利採掘日計簿  
 三砂利運送日計簿  
 四人夫出面帳

五船隻器具臺帳  
 六往復文書綴  
 七報告及進達書綴  
 八諸色購入簿  
 九日誌  
 十雜綴  
 以上古川事務所  
 一砂利受渡日計簿  
 二人夫出面帳  
 三器具臺帳  
 四往復文書綴  
 五報告及進達書綴  
 六諸色購入簿  
 七日誌

八雜綴

以上月島事務所

第二十四條 毎月三回(十日二十日末日)砂利採掘運送受渡等ノ功程ヲ市役所土木部ニ報告スヘシ

(第一號書式)

御請書

私共今般砂利運送ノ爲御雇入相成候ニ付テハ左ノ各號ヲ遵守シ凡テ誠實ニ相勤メ決シテ不都合ノ舉動仕間敷候若シ本人ノ行爲ニ依リ損害賠償ノ義相生シ候トキハ保證人ニ於テ引受可申候

一元船定繫所ヨリ東京月島マテ運送砂利壹坪ニ付

賃金貳圓四拾五錢ノ割合ヲ以テ御下渡ノコト

但月島ヨリ市内各河岸場ヲ命セラレタルトキ

ハ更ニ貳拾錢以内増賃スヘキコト

二元船一艘ノ砂利積載量ハ壹坪五合以上貳坪以内

タルヘキコト

三砂利積載検査ハ受取狀ニ記載ノ坪數ニテ異議ナ

キコト

四運送ノ回数ハ一ヶ月八回以上タルヘキコト

五賃金ハ毎月二回ニ御下渡ノコト

六賃金ハ船頭何某ノ名ヲ以テ御下渡相成リ異議ナ

キコト

右及御請候依テ身元保證人連署御請書差上候也

住所族籍

年月日

何丸何號 何 某印

舟子

何 何 某印

同 同

同 船頭 何 某印  
 同 同  
 身元保證人何 某印  
 東京市參事會  
 市長 宛

(第二號書式)

御請書

私義今般何何トシテ御備入(小頭ハ月手當)相成候ニ付  
 テハ總テ誠實ヲ以テ相勤決シテ不都合ノ舉動仕間敷  
 候依テ身元證人連署御請書差上候也

府(縣郡市)町村大字 字 番地  
 族籍 氏 名印  
 身元保證人  
 府(縣郡市)町村大字 字 番地

族籍 氏 名印

(第三號書式)

東京市役所土木部御中

至月 日 貸金請求書

一金、〃、〃、

貸金高

此運送砂利合計何百何十何坪何合  
 右及請求候也

住所族籍

何丸第何頭號

何 某印

年月日

東京市參事會  
 市長 宛

印紙

右請求金額正ニ領收候也

